



National Institute of Informatics

NII Technical Report

科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度の調査研究－2007年度(平成19年度)版－

I. 人文社会系編

Evaluation of Japanese Universities' Research Activity Based on the Number of Awards of Grants-in-Aid for Scientific Research — 2007 Fiscal Year —

I. Humanities and Social Sciences

野村浩康、光田好孝、前田正史、前橋 至、
根岸正光、柴山盛生、西澤正己、孫 媛

Hiroyasu NOMURA, Yoshitaka MITSUDA, Masafumi MAEDA,
and Itaru MAEBASHI,

Masamitsu NEGISHI, Morio SHIBAYAMA, Masaki NISHIZAWA,
and Yuan SUN

NII-2009-008J

Apr. 2009

科学研究費補助金採択研究課題数による
大学の研究活性度の調査研究
－2007年度(平成19年度)版－
I. 人文社会系編

野村浩康**, 光田好孝*, 前田正史*, 前橋 至*
* 東京大学 ** 東京電機大学

根岸正光, 柴山盛生, 西澤正己, 孫 媛
国立情報学研究所

Evaluation of Japanese Universities' Research Activity
Based on the Number of Awards of
Grants-in-Aid for Scientific Research
－ 2007 Fiscal Year –
I. Humanities and Social Sciences

Hiroyasu NOMURA**, Yoshitaka MITSUDA*,
Masafumi MAEDA*, Itaru MAEBASHI*
* The University of Tokyo, ** Tokyo Denki University

Masamitsu NEGISHI, Morio SHIBAYAMA,
Masaki NISHIZAWA, Yuan SUN,
National Institute of Informatics

Abstract

The system of *Grants-in-Aid for Scientific Research* from Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan is one of the oldest ones, which is the funding system for researchers belonging to universities and institutes in Japan. The fund was allotted to each researcher by peer review under the application for their own research projects.

This is the first report for 2007 fiscal year's version on the research field of humanities and social sciences. The total number of adopted subjects of research projects at 2007 has been summed up for each university and institute on individual research field and compared to those of 2006 which were reported previously.

目 次

I. 科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度の調査研究について

1. はじめに	1
2. 調査研究に利用したデータベース	3
3. 2007 年度（平成 19 年度）の包括的な状況	3
4. 調査研究の具体的な分析方針	10

II. 個別課題研究費編：人文社会系

1. 概要	11
2. 分野別	19
2-1 人文学	19
2-2 社会科学	29

I. 科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性化の調査研究について

1. はじめに

文部科学省（文部省）科学研究費補助金制度は、わが国最大の、国・公・私立大学、国立研究機関などに所属する研究者に対する個人申請とピアレビューによる国の研究費配分制度であり、この制度がわが国の大学の基礎研究を支えてきたといっても過言ではない。わが国の科学技術の振興を一層図るために、いわゆる競争的研究資金である科学研究費補助金に予算が重点的に配分され、最近ではその伸び率が小さくなってきたものの、図1-1に示すように毎年予算増が図られ、2008年度（平成20年度）には1,932億円に達し、他の省庁の所轄を含めてわが国最大の競争的研究資金となっている。納税者に対する説明責任という観点からも、科学研究費補助金がどのように配分されているかを総合的に調査・分析することは重要である。

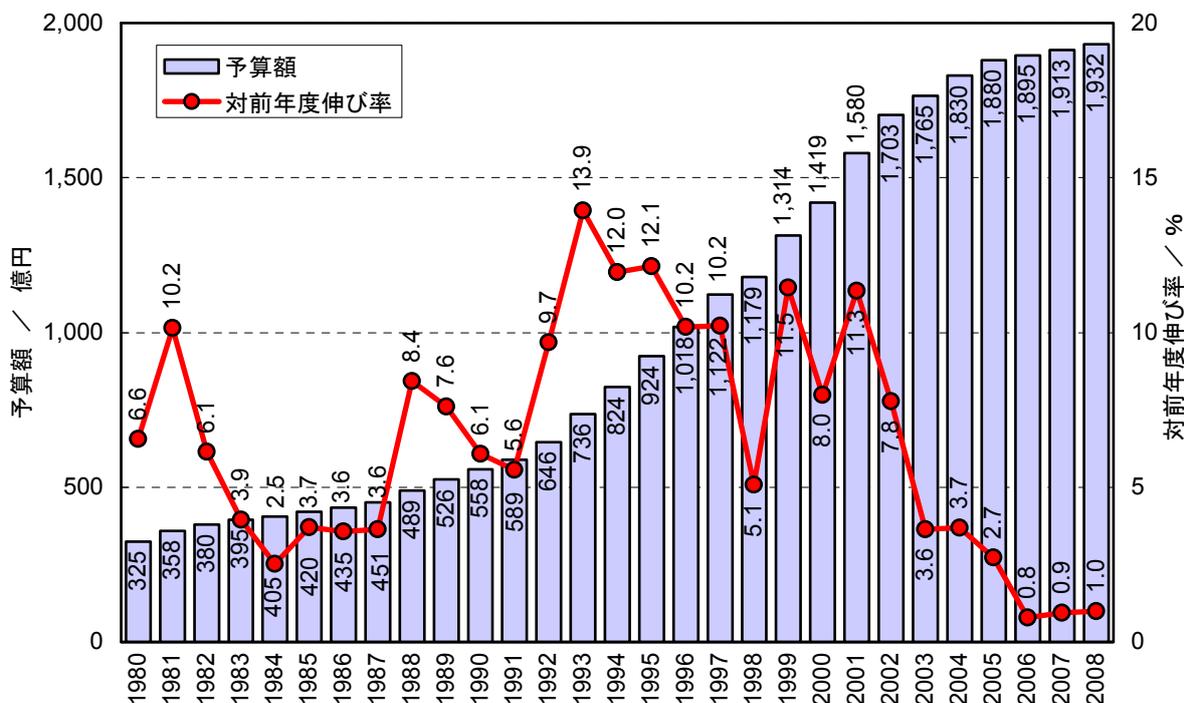


図1-1 科学研究費補助金の予算額の推移

近年、いろいろな機関が大学などの評価、順位づけを行っているが、評価における観点として、個人および機関評価の資料として用いるデータの公開性の問題がある。公開され誰にでも入手できるデータに基づき、明示された方法により、評価・順位づけがなされなければならない。この種の資料の整理・公開が非常に遅れていることも、わが国の正確な評価システムの構築を妨げている一因である。この意味からも科学研究費補助金の採択研究課題名および金額は、毎年「文部科学省科学研究費補助金採択課題・公募審査要覧」（ぎょうせい発行）に公表されており、現在では国立情報学研究所のwebサイトにも公開され、条件さえ整えば誰でもがみることができると、最も公開が進んでいる資料で

ある。

科学研究費補助金のように、公開データから採択研究課題数を大学別に整理することにより順位づけを行う場合、必ず大学の規模の問題が出てくる。科学研究費補助金採択研究課題数は、いわば英国における各大学の RAS (Research Active Staff) の数に対応するものと考えられる。国立大学の法人化により徐々に運営費交付金の削減が進行すれば、わが国の研究者への研究費の配分について、機関配分よりも競争的な個人配分の割合が大きくなる傾向が強くなるのは当然の流れである。科学研究費補助金制度は、国・公・私立大学の区別なく研究者個人が申請し研究費を獲得する制度である。採択研究課題数の多い大学は、活発に研究活動をしている教員、英国流に言えば RAS が多く所属していることになり、分野ごとの採択研究課題数の多寡は、各大学の研究活性分野の濃淡を表すことになる。とすれば、このような資料は、大学当局においても構成員の研究活力度を的確に把握するために欠くことのできないもの、大学ガバナンスの資料でもあるはずである。

この科学研究費補助金制度の根幹をなす仕組みのひとつが科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」(以下「細目表」という)である。この「細目表」は基盤研究などの研究種目に関し審査分野の区分を示す分類表である。ここで注意すべきことは、科学研究費補助金の「細目表」における細目構成が基本的にわが国の学部・学科編成と似ていることから、科学研究費補助金の採択研究課題数と学部・学科などの大学の組織の人数などを短絡的に比較しがちな点である。しかし、学部・学科・専攻が学問分野を中心に編成されているものの、研究者がその所属に関係なく、実施しようとする研究計画の内容を考え、適切な「細目」を自ら選んで研究費を申請できることが、科学研究費補助金の特徴である。

科学研究費補助金の「細目表」は不断に進展を続ける学問・研究の動向に合う適切なものでなければならぬ。このような考えを受けて、2003 年度に大幅な「細目表」の改訂が行われている。一方、「細目表」の改訂が一段落した 2006 年度から、若手研究(スタートアップ)が始まり、特別研究促進費が従来の大型研究から大きくその性格を変えている。このほか、2007 年度からは若手研究(S)が始まり、さらに 2008 年度からは大型研究が従来とは大きく変化し「新学術領域研究」という新しい研究種目が導入されるように、少しずつ制度の内容が変わってきている。

2003 年度(平成 15 年度)の科学研究費補助金の「細目表」の大改訂を考慮し、1998 年度(平成 10 年度)から 2002 年度(平成 14 年度)の 5 年間の全ての分野にわたって科学研究費補助金採択研究課題を分析し、わが国の大学・研究機関の研究活力度を調べ、国立情報学研究所の「NII テクニカルレポート」として、web 上に公表した。また、その骨子は慧文社から「科学研究費補助金からみる全国大学総合ランキング — 科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活力度の調査研究 —」として出版した。以来、2003 年度から毎年、科学研究費補助金の全ての分野にわたり調査・分析した結果をその都度、web 上または出版物として報告してきた。この間、2004 年度(平成 16 年度)には国立大学の法人化など大学をめぐる研究・教育環境は大きく変化してきた。

本調査報告は、同様の調査研究の 2007 年度(平成 19 年度)版である。このような調査研究には連続性が必要であるので、2006 年度版までの調査研究と同じ方針でデータの整理・分析を行う。2006 年度版と同様に、個別課題研究費(基盤研究、萌芽研究、若手研究、特別研究員奨励費)と大型研究費(特別推進研究、特定領域研究、特別研究促進費、学術創成研究費)とその他(奨励研究、特定奨励費、研究成果公開促進費、審査・評価・分析経費)にわけ、個別課題研究費、大型研究費について解析する。2006 年度から特別研究促進費の性格が変わり、2007 年度にも若干の変更があったが、これまでの調査研究との整合性から、特別研究促進費は大型研究費の中で議論する。

2. 調査研究に利用したデータベース

科学研究費補助金の採択研究課題名などについては、「文部科学省科学研究費補助金採択課題・公募審査要覧」（ぎょうせい発行）として、毎年10月に公表・刊行されている。また、科学研究費補助金の採択研究課題名や成果概要などについては、国立情報学研究所により「KAKEN（科学研究費補助金採択課題・成果概要データベース）」（URL：<http://seika.nii.ac.jp/>）としても公開されている。このように、科学研究費補助金については、公開されたデータが存在するため、採択研究課題数などを機関評価の資料として用いることが可能である。このことは、2005年（平成17年）6月にユネスコ・ヨーロッパ高等教育センターが呼びかけ開催された高等教育専門家会合において、大学ランキングの望ましい在り方を示した文書「高等教育機関のランキングに関するベルリン原則」にも謳われているデータの透明性にあたる。

本調査研究、基本的に個別課題研究費の分析には「KAKEN」に公開されているデータベースを用いており、「KAKEN」データでは直接経費のみであるため、各採択研究課題の配分額は直接経費のみの額である。また、予算額などの「KAKEN」から得られないデータについては「文部科学省科学研究費補助金採択課題・公募審査要覧」に掲載されている数値を用いており、予算額は基本的には間接経費を含んだ額となっている。

なお、「KAKEN」には基本的に年度当初の採択研究課題に加え、年度途中の追加採択研究課題も含まれているが、本調査研究用にデータを取得した段階では、2007年度基盤研究（C）については追加採択研究課題が反映されていなかった。一方、2007年度に関しては「文部科学省科学研究費補助金採択課題・公募審査要覧」に「補遺版」が発行され、通常とは異なる時期に採択が行われた若手研究（S）の採択研究課題や追加採択の状況が掲載されている。

3. 2007年度（平成19年度）の包括的な状況

2007年度の総予算額は、図1-1に示したように、前年度より18億円増、0.9%増えて1,913億円である。伸び率はきわめて小さいが、緊縮財政状況の中でプラスの伸び率であることをよとする状況である。2005年度から2007年度までの総予算額の項目別内訳について示したものが、表1-1である。1999年度から科学研究費補助金の取り扱いが基本的に機関経理に変更され、2001年度から科学研究費補助金に間接経費が付けられるようになった。当初は特別推進研究、基盤研究（S）など配分額が大きい研究種目に限られていたが、順次拡大され、2007年度からは基盤研究（B）、（C）にも間接経費が配分されるようになった。したがって表1-1では2005年度から2007年度の予算額を間接経費の配分状況がわかるように、間接経費を内数とした総予算額と間接経費を並列に示した。前述のように、2007年度は前年度に比べ予算額は18億円増加しているが、機関補助である間接経費を引いた実質研究費（直接経費）の予算額は、前年度に比べ約134億円、7.7%減となっている。

これらの項目を、個別課題研究費（基盤研究、萌芽研究、若手研究）、個別課題研究費の一種である特別研究員奨励費、研究成果公開促進費、特定奨励費、大型研究費（特別推進研究、特定領域研究、特別研究促進費、学術創成研究費）、および残りの項目を審査・評価・分析経費他として、予算額の割合を図1-2の円グラフに示す。図1-2では直接経費の予算状況をみるために、予算額から間接経費を除いた金額で提示した。

2005年度、2006年度に比べて、2007年度は項目別予算額（直接経費）の内訳が大きく変化してい

る。前年度と比較すると個別課題研究費の割合が 59.1%から 66.1%に拡大し、大型研究費の割合が 34.1%から 28.1%に縮小しているのが特徴である。特別研究員奨励費、研究成果公開促進費などの割合はほとんど変化していない。先にも述べたように、2007 年度は間接経費の措置される研究種目が増えたために実質研究費（直接経費）の予算額が減ったが、直接経費の予算額を前年度と比較すると、個別課題研究費は 32 億円強、対前年度比 3.1%増加し、その代わり大型研究費が 140 億円強、24.0%減少している。

表 1 - 1 科学研究費補助金の項目別予算額

金額単位/百万円

項 目	2005年度		2006年度		2007年度		
	予算額	間接経費 (内数)	予算額	間接経費 (内数)	予算額	間接経費 (内数)	
1 科学研究費	(1) 特別推進研究	13,600	3,138	13,700	3,161	8,255	1,905
	(2) 特定領域研究	40,291	—	40,291	—	31,480	—
	(3) 基盤研究(S)	10,600	2,446	10,600	2,446	10,600	2,446
	(4) 基盤研究(A)	20,640	4,760	20,640	4,760	21,970	5,070
	(5) 基盤研究(B)	34,110	—	34,110	—	44,343	10,233
	(6) 基盤研究(C)	19,870	—	19,870	—	26,026	6,006
	(7) 萌芽研究	5,250	—	5,250	—	5,508	—
	(8)若手研究(S)	—	—	—	—	1,300	300
	(9) 若手研究(A)	5,900	1,361	6,150	1,419	6,150	1,419
	(10) 若手研究(B)	14,600	—	14,600	—	14,600	—
	(11) 若手研究 (スタートアップ)	—	—	1,000	—	1,800	—
	(12) 奨励研究	600	—	600	—	500	—
	(13) 特別研究促進費	250	—	400	—	250	—
	小 計	165,711	11,705	167,211	11,786	172,782	27,379
2 研究成果 公開促進費	(1) 学術定期刊行物	884	—	884	—	583	—
	(2) 学術図書	685	—	685	—	412	—
	(3) デー タベ ー ス	1,416	—	1,416	—	645	—
	(4) 研究成果公開発表	397	—	397	—	160	—
	小 計	3,382	—	3,382	—	1,800	—
3 特定奨励費	770	—	770	—	700	—	
4 特別研究員奨励費	6,170	—	6,070	—	5,353	—	
5 学術創成研究費	11,050	2,550	11,050	2,550	9,515	2,196	
6 審査・評価・分析経費	917	—	1,017	—	1,150	—	
合 計	188,000	14,255	189,500	14,336	191,300	29,575	

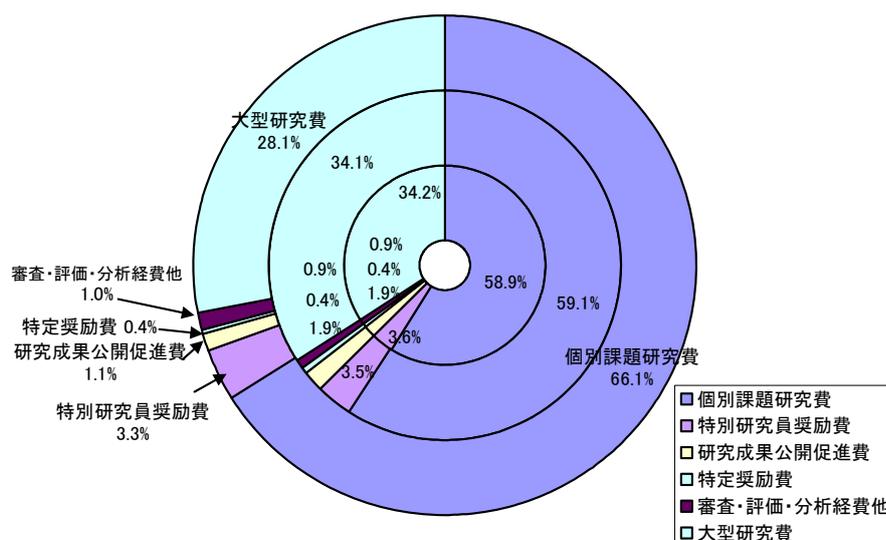


図 1-2 2005 年度(内周)、2006 年度(中間周)、2007 年度(外周)の
科学研究費補助金（直接経費）の項目別予算の割合

まず、個別課題研究費について、2007 年度の採択研究課題数を「分野」別に眺めてみよう。採択研究課題数に着目し、個別課題研究費（基盤研究、萌芽研究、若手研究、および特別研究員奨励費）の分析に用いた「分野」別および研究種目別の採択研究課題数と配分額を表 1-2 に示す。特別研究員奨励費を除いた個別課題研究費の配分額の総額は前年度より 1.3% 増加し、採択研究課題数も 1,858 件、対前年度比にして 4.3% 増えている。

特別研究員奨励費を除いた個別課題研究費（基盤研究、萌芽研究、若手研究）の 2007 年度の「分野」別の採択研究課題数の割合を図 1-3 に示す。前年度と比較して、個別課題研究費の総予算額の増加に伴い全体の採択研究課題数も伸びているが、個別課題研究費の総採択研究課題数に占める各「系」の割合は、総合・新領域系が 17.6%、人文社会系は 19.0% と前年度に比べてそれぞれ 0.2%、1.0% 大きくなっているのに対し、理工系は 25.3% から 24.4% と 0.9% 小さくなり、生物系も 39.2% から 39.0% と 0.2% 小さくなっている。人文社会系の割合が大きくなっているのに対し、理工系の割合が小さくなっている。

表 1-2 個別課題研究費の分野別研究種目別の採択研究課題数と配分額（2007 年度）

金額単位/百万円

研究種目	分野	総合領域	複合新領域	人文学	社会科学	数物系科学	化学	工学	生物学	農学	医歯薬学	時限付き	研究種目別合計
		件数	配分額	件数	配分額	件数	配分額	件数	配分額	件数	配分額	件数	配分額
基盤研究 (S)	件数	37	44	13	9	44	27	71	29	20	50	0	344
	配分額	619	753	201	135	725	473	1,185	508	336	879	0	5,814
基盤研究 (A)	件数	196	200	137	161	198	85	333	77	134	210	0	1,731
	配分額	1,888	1,887	1,005	1,305	1,874	931	3,554	819	1,199	2,320	0	16,782
基盤研究 (B)	件数	923	569	573	755	587	309	1,249	317	668	1,648	0	7,598
	配分額	3,958	2,566	1,934	2,604	2,443	1,584	6,032	1,556	2,999	8,336	0	34,011
基盤研究 (C)	件数	1,964	622	1,801	2,068	1,336	450	1,859	486	822	5,505	283	17,196
	配分額	2,487	821	1,697	2,090	1,465	701	2,544	755	1,159	8,007	369	22,094
萌芽研究	件数	555	226	192	293	224	169	520	159	281	1,260	0	3,879
	配分額	746	340	180	302	275	285	816	249	421	1,891	0	5,506
若手研究 (S)	件数	4	3	2	2	3	4	5	2	2	8	0	35
	配分額	76	82	11	23	81	70	64	23	21	148	0	600
若手研究 (A)	件数	130	82	11	22	79	67	197	56	50	135	0	829
	配分額	724	463	38	88	438	409	1,216	344	285	826	0	4,831
若手研究 (B)	件数	1,588	519	654	1,439	900	426	1,432	489	589	3,772	0	11,808
	配分額	1,945	659	562	1,298	995	629	1,934	722	784	5,188	0	14,716
若手研究(スタートアップ)	件数	162	73	119	234	106	61	186	75	85	523	0	1,624
	配分額	196	89	126	241	131	80	230	99	112	652	0	1,956
分野別合計	件数	5,559	2,338	3,502	4,983	3,477	1,598	5,852	1,690	2,651	13,111	283	45,044
	配分額	12,639	7,662	5,755	8,084	8,427	5,162	17,574	5,076	7,317	28,246	369	106,310
特別研究員奨励費	件数	5,553											5,553
	配分額	5,245											5,245

* 特別研究員奨励費に関してのみ、平成 19 年度文部科学省科学研究費補助金採択課題・公募審査要覧よりデータを採用した。

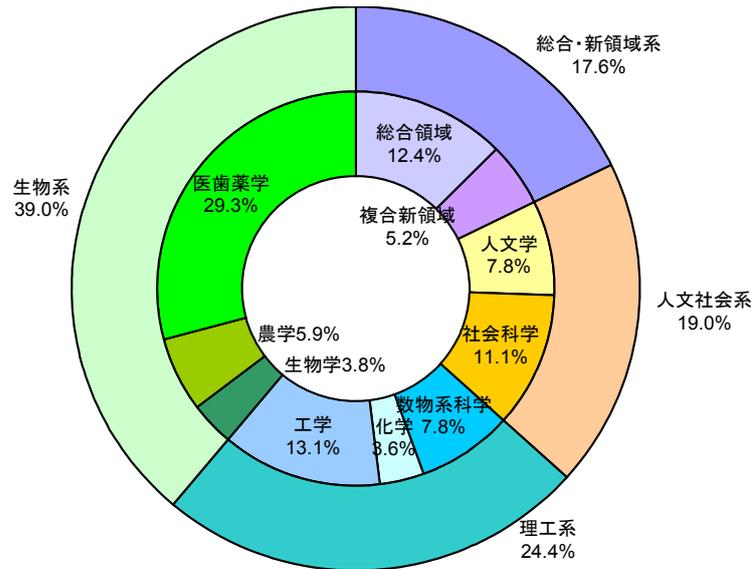


図 1-3 2007 年度科学研究費補助金の「系」別(外周)および「分野」別(内周)採択研究課題数の割合

次に、2007 年度の採択研究課題数を機関別に眺めてみよう。2007 年度の特別研究員奨励費を除く研究種目全体の機関別採択研究課題数上位 50 位を表 1-3 に、その棒グラフを図 1-4 に示す。

このような採択研究課題数による順位づけでは研究機関の規模が大きく反映されるほか、医学系の学部・研究科を持つ大学が比較的上位に現れやすい傾向がある。前年度と比較すると、1 位の東京大学から 11 位の神戸大学まで旧帝国大学、旧文理大学などが続き、その順位に変動はない。上位で特徴的なことは岡山大学と慶應義塾大学が順位を入れ替えているほか、理化学研究所が 16 位から 14 位に上昇していることである。中位グループでは群馬大学が 26 位から 24 位に上昇し、山口大学が 24 位から 26 位に後退している程度で、その他はおおむね±1 の変化に留まっている。40 位以降では、東京理科大学が同数 50 位から 43 位に上昇し、日本原子力研究開発機構が同数 48 位と上位 50 位入りを果たし、福井大学は 45 位から同数 48 位に、鳥取大学が 42 位から同数 48 位に後退し、奈良先端科学技術大学院大学、宮崎大学、佐賀大学が上位 50 位から姿を消している。

表 1-3 特別研究員奨励費を除く研究種目全体 採択研究課題数上位 50 位 (2007 年度)

金額単位/千円

順位	種別	機関名	2007年度		2006年度 件数
			件数	金額	
1	国	東京大学	2,899	17,818,660	2,860
2	国	京都大学	2,362	11,936,750	2,310
3	国	東北大学	2,001	8,651,550	1,890
4	国	大阪大学	1,926	8,891,240	1,794
5	国	九州大学	1,489	5,116,740	1,466
6	国	北海道大学	1,432	5,011,528	1,456
7	国	名古屋大学	1,312	5,604,770	1,256
8	国	筑波大学	969	2,854,530	944
9	国	広島大学	855	2,263,450	837
10	国	東京工業大学	787	4,242,430	790
11	国	神戸大学	757	2,433,760	762
12	私	慶應義塾大学	668	1,996,116	622
13	国	岡山大学	623	1,625,470	644
14	他	理化学研究所	600	2,813,940	553
15	国	千葉大学	588	1,574,710	593
16	私	早稲田大学	566	1,593,181	576
17	国	金沢大学	552	1,246,450	501
18	国	熊本大学	431	1,197,600	408
19	国	東京医科歯科大学	424	1,649,710	407
20	国	新潟大学	414	975,000	458
21	国	長崎大学	401	993,480	390
22	国	徳島大学	381	975,430	402
22	私	日本大学	381	671,991	347
24	国	群馬大学	355	848,350	333
25	公	大阪市立大学	336	848,520	335
26	国	山口大学	323	628,160	340
27	国	鹿児島大学	321	715,170	305
28	国	信州大学	320	857,380	316
29	公	大阪府立大学	317	738,930	296
30	公	首都大学東京	298	749,990	288
31	他	産業技術総合研究所	296	922,360	272
32	国	愛媛大学	287	689,400	270
33	国	静岡大学	275	606,810	266
34	国	岐阜大学	265	543,890	267
35	国	富山大学	261	554,007	258
36	国	三重大学	250	585,380	240
37	国	山形大学	249	446,994	247
38	私	立命館大学	242	536,160	245
39	公	名古屋市立大学	228	504,020	224
40	国	東京農工大学	227	903,060	228
41	国	横浜国立大学	219	577,560	222
42	国	琉球大学	217	354,362	211
43	私	東京理科大学	209	538,330	185
44	国	弘前大学	207	377,230	204
45	私	東海大学	204	455,000	208
46	公	横浜市立大学	203	552,520	203
46	公	京都府立医科大学	203	474,780	186
48	他	日本原子力研究開発機構	198	782,310	161
48	国	福井大学	198	380,910	205
48	国	鳥取大学	198	364,590	217
合計			49,189	152,476,133	47,484

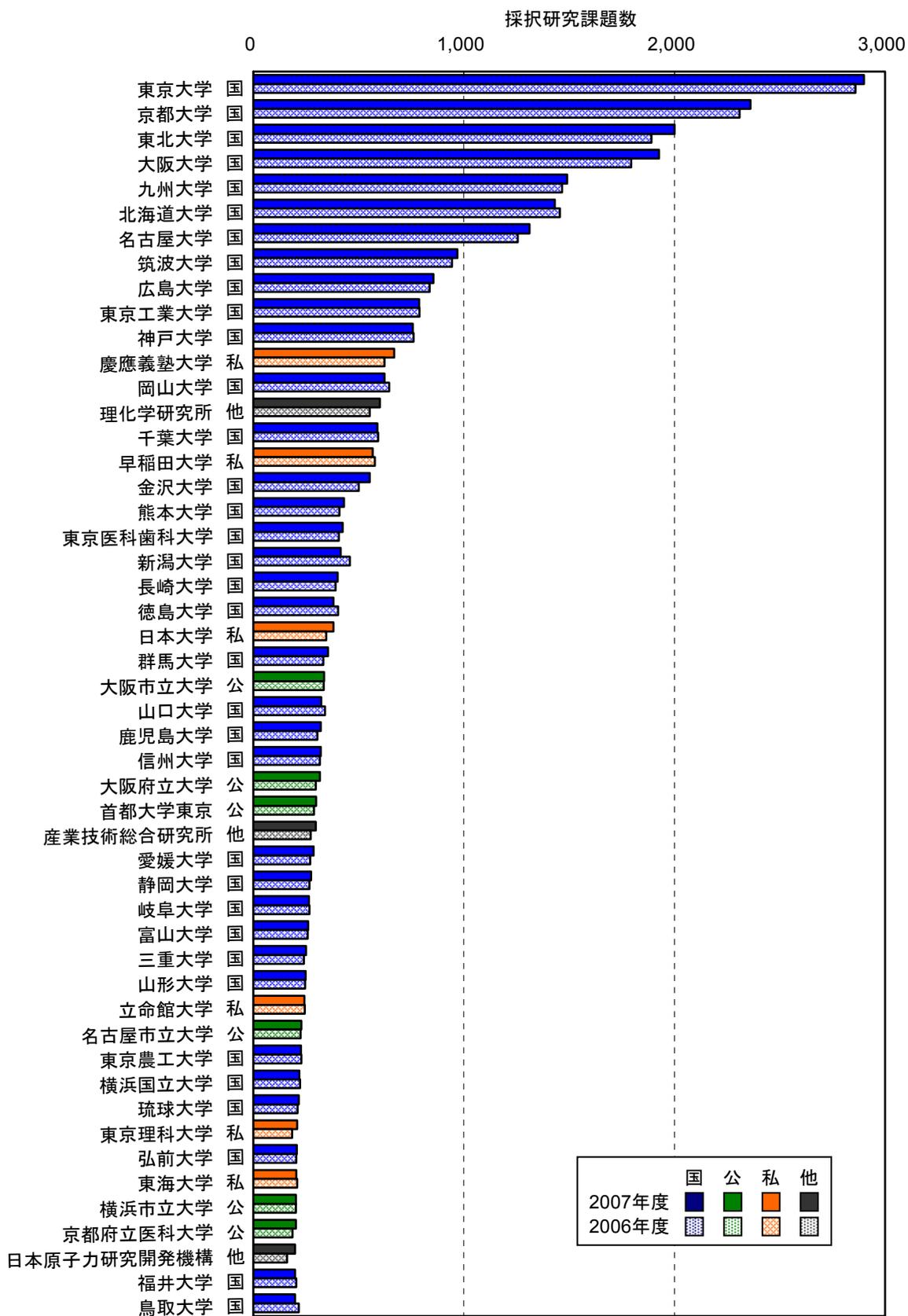


図 1 - 4 特別研究員奨励費を除く研究種目全体 採択研究課題数上位 50 位 (2007 年度)

4. 調査研究の具体的な分析方針

特別研究員奨励費を除く個別課題研究費では、科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度を、科学研究費補助金申請および採択に用いられた「細目表」にしたがって整理した。基本的には前回の2006年度版の分析方針と同じである。経時変化がわかるように、2006年度の機関別採択研究課題数を併記することとした。ただし、2006年度の途中から2007年度の研究課題の採択までの間に、大学などの合併や名称変更などが行われている。2006年度の採択研究課題数を表記する場合には、この点を考慮して、2007年4月1日現在における大学などの合併や改廃を考慮した合算を行うなどの補正をしている。また、独立行政法人の改編に伴い申請時の機関名の記述が変更になったものもあり、比較の難しいものもある。補正内容の詳細については個々に記さないで、注意されたい。

これらの研究種目については次の方法で分析する。

- (1) 各「系」について、2007年度の科学研究費補助金の採択研究課題数による機関別順位を上位50位まで整理する。
- (2) 各「分野」について、採択研究課題数による機関別順位を上位50位まで整理する。
- (3) 「分科」については、文学、法学、経済学、薬学など学部に対応するものもある。基本的には、各「分科」について採択研究課題数による機関別順位を上位30位まで整理する。ただし、採択研究課題数が1件の場合は省略し、2件までの順位とする。
- (4) 各「細目」については、単年度では調査件数が少ないことから、2007年度の単年度の分析の対象にはしなかった。この点については、2003年度から2007年度までの5年間の総集編の出版を計画しており、そこであらためて分析対象としたい。

Ⅱ. 個別課題研究費編：人文社会系

1 概要

2007 年度の採択結果に前年度の機関別採択研究課題数を併記し、経時変化による採択動向をみることにする。人文社会系全体での機関別採択研究課題数上位 50 位を表 2-1 に、その棒グラフを図 2-1 に示す。表から明らかなように、前年度と比較すると、個別課題研究費全体の採択研究課題数が対前年度比 4.3% 増えているのに対して、人文社会系全体の採択研究課題数は 7,741 件から 8,485 件へと、744 件、対前年度比にして 9.6% と大幅に増えている。

前年度と比較すると、上位グループでは東京大学の 1 位、早稲田大学の 2 位は変わらないが、筑波大学が 5 位から 3 位に順位を上げ、大阪大学、東北大学、名古屋大学も順位を上げている一方、神戸大学が 4 位から 7 位に、広島大学が 7 位から 10 位に後退している。しかし、全体として大きな変動はみられない。これに対して、中位以降の大学ではかなりの変動がみられる。特に、埼玉大学では同数 43 位から同数 25 位に急上昇しているほか、首都大学東京が 21 位から 15 位に、同志社大学が 23 位から 19 位に、法政大学が同数 24 位から 20 位に、関西学院大学が同数 39 位から同数 30 位に、明治大学が 34 位から同数 30 位に、山形大学が同数 45 位から同数 37 位に順位を上げている。これに対して、新潟大学が 16 位から同数 22 位に、東京学芸大学が 22 位から 28 位に順位を下げ、大阪市立大学、信州大学、お茶の水女子大学、東洋大学、熊本大学もそれぞれ順位を 3 から 5 下げているほか、中央大学が同数 35 位から同数 48 位に、長崎大学が同数 37 位から 50 位に大きく順位を下げるなど、かなりの変動がみられる。さらに下位のグループでは、大阪教育大学、三重大学、龍谷大学、滋賀大学が上位 50 位から消え、代わりに大阪府立大学、京都産業大学、香川大学が上位 50 位に入り、特に大阪府立大学が 39 位に躍進しているのが目立つ。

表2-1 人文社会系 採択研究課題数上位50位(2007年度)

金額単位/千円

順位	種別	機関名	2007年度		2006年度 件数
			件数	金額	
1	国	東京大学	343	883,390	331
2	私	早稲田大学	236	414,480	229
3	国	筑波大学	233	397,680	205
4	国	京都大学	221	533,240	216
5	国	大阪大学	211	388,220	190
6	国	東北大学	201	377,220	177
7	国	神戸大学	197	381,640	206
8	国	名古屋大学	193	320,920	173
9	国	北海道大学	187	374,830	177
10	国	広島大学	184	278,680	179
11	国	九州大学	171	289,230	162
12	私	立命館大学	115	177,360	122
13	国	一橋大学	101	338,000	101
14	私	関西大学	91	127,270	80
15	公	首都大学東京	89	145,200	66
16	国	千葉大学	85	145,540	75
17	国	東京外国語大学	84	202,900	71
18	私	慶應義塾大学	82	148,080	69
19	私	同志社大学	81	133,680	63
20	私	法政大学	74	158,300	62
21	国	琉球大学	72	105,472	71
22	国	新潟大学	70	91,810	72
22	国	岡山大学	70	80,200	68
24	国	金沢大学	68	89,690	62
25	私	日本大学	64	97,520	61
25	国	埼玉大学	64	87,140	39
27	国	静岡大学	63	82,780	58
28	国	東京学芸大学	61	99,340	65
29	国	横浜国立大学	58	75,240	50
30	私	関西学院大学	57	124,290	43
30	私	明治大学	57	76,155	48
32	公	大阪市立大学	56	91,850	51
33	国	信州大学	55	75,640	52
34	国	お茶の水女子大学	54	97,080	49
34	私	東洋大学	54	80,610	49
36	国	熊本大学	50	62,110	49
37	私	立教大学	48	116,490	44
37	国	山形大学	48	42,500	38
39	公	大阪府立大学	47	52,600	31
40	国	山口大学	46	60,420	45
41	私	青山学院大学	45	71,600	38
41	国	弘前大学	45	61,800	42
41	国	愛媛大学	45	58,780	39
44	私	上智大学	44	83,880	43
45	国	富山大学	43	62,947	42
46	国	福島大学	42	48,920	36
46	私	京都産業大学	42	48,120	31
48	私	中央大学	41	68,920	45
48	国	香川大学	41	52,510	32
50	国	長崎大学	40	43,000	44
合計			8,485	13,839,656	7,741

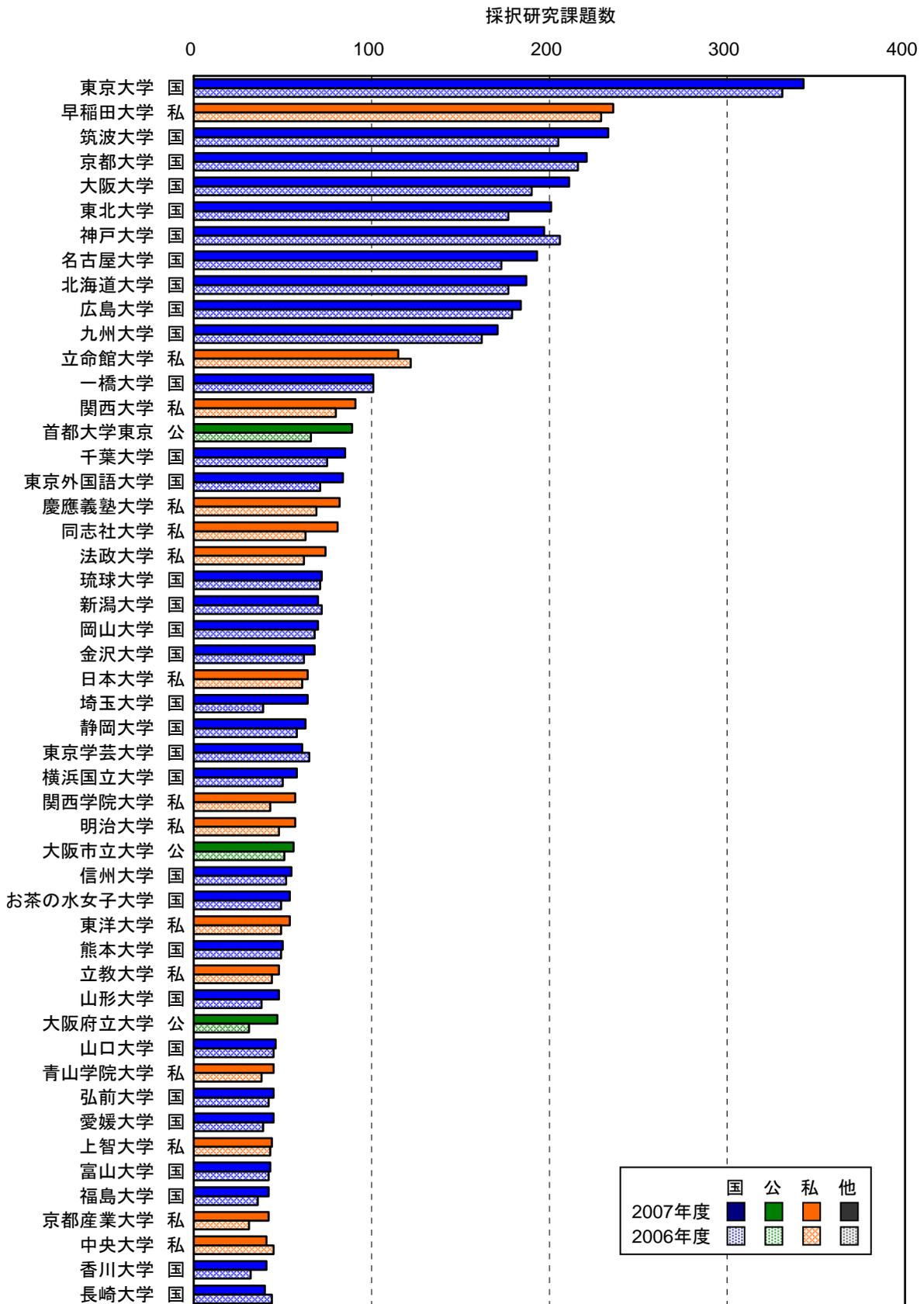


図 2 - 1 人文社会系 採択研究課題数上位 50 位 (2007 年度)

この人文社会系を「分野」別にわけてみると、図2-2に示すように、2007年度の採択研究課題数の割合は分野：人文学で41.3%（前年度：41.6%）、分野：社会科学で58.7%（前年度：58.4%）であり、「分野」別の割合は前年度からほとんど変化していない。採択研究課題数の伸び率については分野：人文学が8.8%増、分野：社会科学が10.2%増となっており、人文社会系の伸び率である9.6%に対し分野：社会科学の伸び率のほうが大きい。

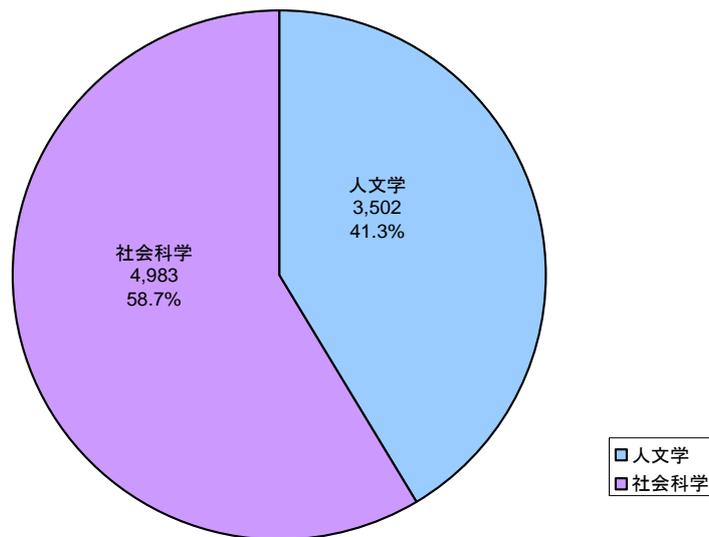


図2-2 2007年度の人文社会系「分野」別採択研究課題数

分野：人文学、社会科学での採択研究課題数を機関別に整理したものの上位50位を表2-2に、棒グラフを図2-3と図2-4にそれぞれ示す。人文学、社会科学ともに前年度までの傾向とほぼ同じであるが、分野：社会科学では13位と14位の採択研究課題数の差が12件となっており、前年度の31件差よりも小さくなっている。

分野：人文学に関して、上位グループでは九州大学が同数7位から同数10位に、新潟大学が同数16位から22位に、岡山大学が19位から同数25位に後退したことが目立つものの、その他の機関は順位の変動が1ないし2に留まっている。これに対し、中位以降ではかなり大きな変動がみられる。首都大学東京が同数22位から同数17位に、大阪外国語大学が同数22位から同数19位に順位を上げているのをはじめ、同志社大学が同数42位から23位に、茨城大学が同数42位から同数25位に、埼玉大学が同数46位から同数27位に、山形大学が同数37位から同数29位に、国立民族学博物館が同数37位から同数31位に、愛媛大学が同数49位から42位にと大幅に順位を上げている。一方、熊本大学が27位から同数31位に、山口大学が同数28位から同数34位に、富山大学が同数28位から同数36位に、東京学芸大学が同数32位から同数36位に、国立国語研究所が同数28位から同数43位に、国文学研究資料館、愛知県立大学がともに同数32位から同数43位になるなど大幅に順位を後退させている。また、国立歴史民俗博物館、三重大学、中央大学、上智大学、神戸市外国語大学が上位50位から消え、奈良女子大学、大阪府立大学、南山大学、信州大学が上位50位に入っている。しかしながら50位付

近では採択研究課題数が数件増減するだけで大きく順位が変化するので、注意を要する。

分野：社会科学でも、全体的な傾向は分野：人文学とあまり変わらない。上位グループでは筑波大学の4位から2位への上昇と、広島大学の7位から11位への後退が目立つが、その他の機関ではほとんど変化がない。中位グループ以降では、首都大学東京が同数22位から15位に、関西大学が同数26位から同数19位に、関西学院大学が31位から同数22位に、埼玉大学が同数46位から27位に、明治大学が同数40位から同数33位に、福島大学が同数42位から同数38位になるなど採択研究課題数を増やして上位に進出している。一方、東京学芸大学が16位から同数24位に、信州大学が17位から28位に、長崎大学が同数26位から同数33位になるなど大きく後退している。下位のグループでは滋賀大学、お茶の水女子大学、小樽商科大学、名古屋市立大学、富山大学が上位50位から消え、代わりに京都産業大学、大阪府立大学、山形大学、大分大学が上位50位に顔を出している。

表2-2 人文社会系「分野」別採択研究課題数上位50位(2007年度)

金額単位/千円

人文学					社会科学						
順位	種別	機関名	2007年度		2006 件数	順位	種別	機関名	2007年度		2006 件数
			件数	金額					件数	金額	
1	国	東京大学	163	465,910	145	1	国	東京大学	180	417,480	186
2	国	京都大学	115	266,210	119	2	国	筑波大学	144	247,890	125
3	私	早稲田大学	101	155,980	96	3	国	神戸大学	143	285,640	149
4	国	東北大学	96	161,000	80	4	私	早稲田大学	135	258,500	133
5	国	大阪大学	94	159,200	83	5	国	北海道大学	120	294,450	121
6	国	筑波大学	89	149,790	80	6	国	大阪大学	117	229,020	107
7	国	広島大学	81	104,200	75	6	国	名古屋大学	117	210,520	103
8	国	名古屋大学	76	110,400	70	8	国	京都大学	106	267,030	97
9	国	東京外国語大学	74	172,300	63	9	国	東北大学	105	216,220	97
10	国	九州大学	67	100,000	75	10	国	九州大学	104	189,230	87
10	国	北海道大学	67	80,380	56	11	国	広島大学	103	174,480	104
12	国	神戸大学	54	96,000	57	12	国	一橋大学	77	286,900	78
13	私	立命館大学	45	61,990	40	13	私	立命館大学	70	115,370	82
14	私	関西大学	43	59,770	43	14	私	法政大学	58	127,800	47
15	国	琉球大学	35	56,800	33	15	公	首都大学東京	57	97,400	40
16	国	千葉大学	33	68,900	32	16	私	同志社大学	53	97,460	46
17	国	金沢大学	32	52,510	32	17	国	千葉大学	52	76,640	43
17	公	首都大学東京	32	47,800	26	18	私	慶應義塾大学	51	105,420	42
19	私	慶應義塾大学	31	42,660	27	19	私	関西大学	48	67,500	37
19	国	大阪外国語大学	31	42,400	26	19	国	横浜国立大学	48	62,740	43
21	国	お茶の水女子大学	30	38,720	27	21	国	岡山大学	44	51,400	38
22	国	新潟大学	29	49,700	32	22	私	関西学院大学	42	104,990	31
23	私	同志社大学	28	36,220	17	22	私	日本大学	42	72,390	41
24	国	静岡大学	27	36,200	26	24	国	東京学芸大学	41	74,740	45
25	国	岡山大学	26	28,800	30	24	公	大阪市立大学	41	67,850	37
25	国	茨城大学	26	25,900	17	24	国	新潟大学	41	42,110	40
27	国	一橋大学	24	51,100	23	27	国	埼玉大学	40	50,100	23
27	国	埼玉大学	24	37,040	16	28	国	信州大学	39	55,450	44
29	私	明治大学	23	30,935	23	29	私	東洋大学	38	57,810	33
29	国	山形大学	23	18,100	19	30	国	琉球大学	37	48,672	38
31	他	国立民族学博物館	22	100,600	19	31	国	静岡大学	36	46,580	32
31	国	熊本大学	22	36,800	22	31	国	金沢大学	36	37,180	30
31	私	日本大学	22	25,130	20	33	私	明治大学	34	45,220	25
34	他	奈良文化財研究所	21	57,810	20	33	国	長崎大学	34	37,700	37
34	国	山口大学	21	38,180	21	35	国	香川大学	32	37,610	26
36	国	富山大学	20	43,300	21	36	私	立教大学	31	63,090	27
36	私	龍谷大学	20	36,800	18	37	私	青山学院大学	30	47,000	25
36	国	弘前大学	20	34,090	19	38	私	上智大学	29	61,320	28
36	国	東京学芸大学	20	24,600	20	38	国	福島大学	29	36,420	24
40	国	奈良女子大学	19	33,800	13	38	国	北海道教育大学	29	35,920	26
40	公	大阪府立大学	19	18,200	12	38	私	京都産業大学	29	33,820	19
42	国	愛媛大学	18	23,480	15	42	公	大阪府立大学	28	34,400	19
43	他	国文学研究資料館	17	57,300	20	42	国	熊本大学	28	25,310	27
43	私	立教大学	17	53,400	17	44	国	愛媛大学	27	35,300	24
43	他	国立国語研究所	17	46,700	21	45	私	中央大学	26	34,200	29
43	公	愛知県立大学	17	36,900	20	46	他	国立教育政策研究所	25	55,100	23
43	国	島根大学	17	27,200	17	46	国	弘前大学	25	27,710	23
48	私	南山大学	16	35,890	14	46	国	大阪教育大学	25	26,800	26
48	私	法政大学	16	30,500	15	46	国	山形大学	25	24,400	19
48	私	東洋大学	16	22,800	16	46	国	大分大学	25	22,800	20
48	国	信州大学	16	20,190	8	46	国	山口大学	25	22,240	24
合計			3,502	5,755,202	3,219	合計			4,983	8,084,454	4,522

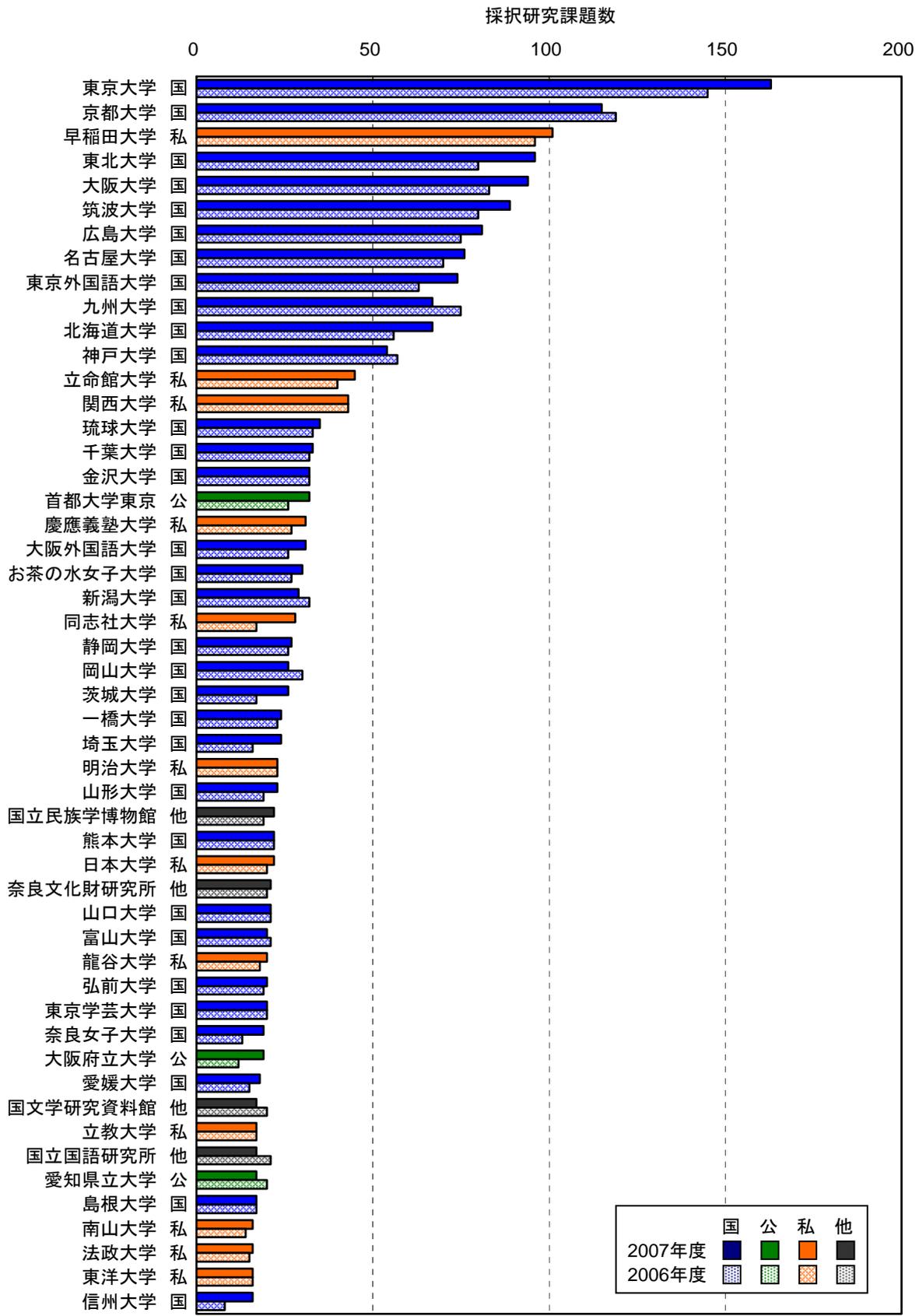


図 2 - 3 人文学 採択研究課題数上位 50 位 (2007 年度)

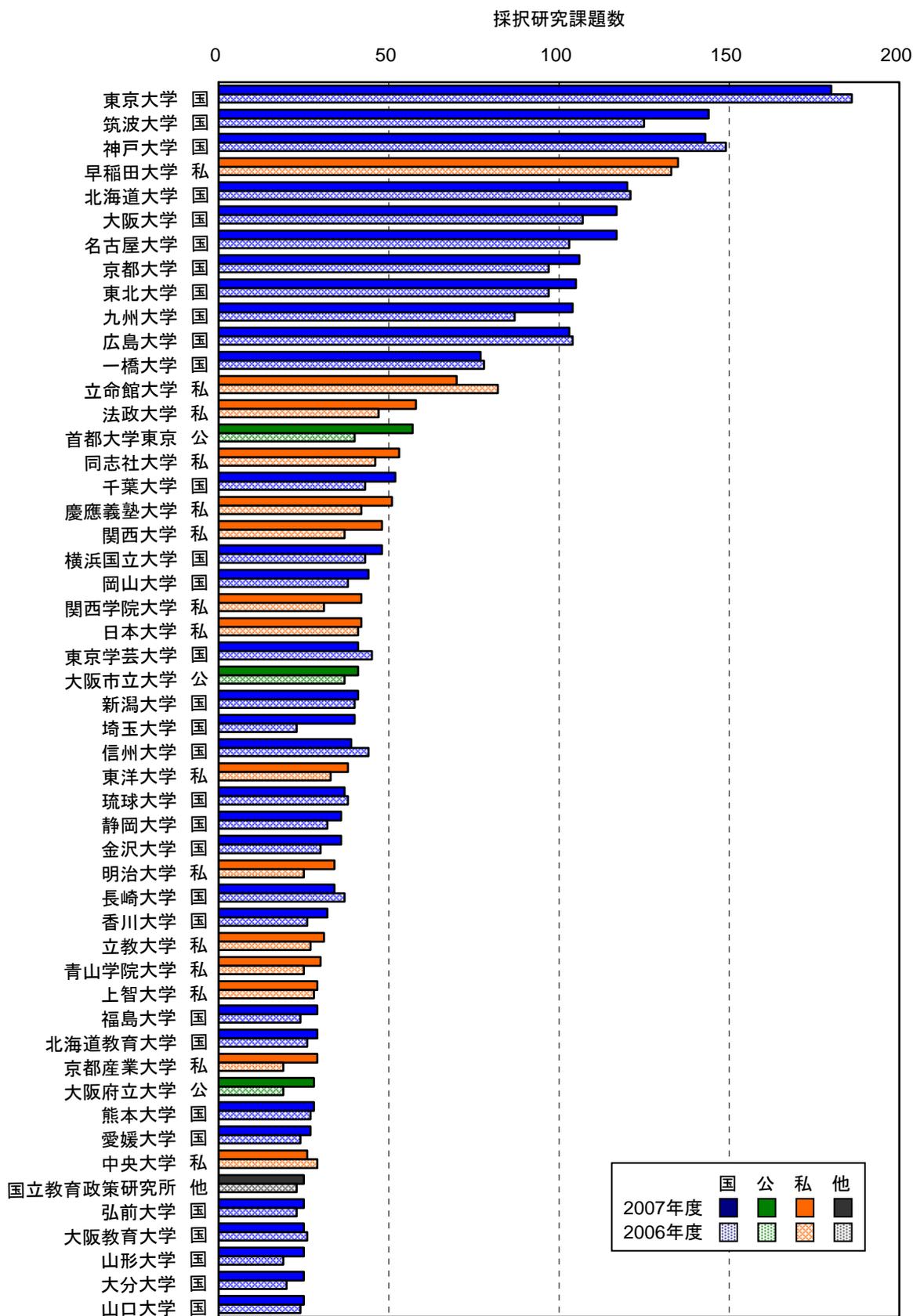


図 2 - 4 社会科学 採択研究課題数上位 50 位 (2007 年度)

2 分野別

2-1 人文学

分野：人文学の中の哲学、文学、言語学、史学、人文地理学、文化人類学の「分科」ごとの採択研究課題数を図2-5の円グラフに示す。

図2-5から明らかなように、前年度と同様に、哲学、文学、言語学、史学の「分科」に比べて、人文地理学、文化人類学の採択研究課題数の割合は小さく、他の「分科」の「細目」に相当する採択研究課題数の規模となっている。このため、単年度のみでの採択研究課題数を用いた大学間の研究活性度の比較を行う場合は、統計的な意味が他の「分科」と異なる点に多少注意する必要がある。

前年度と比較すると、分野：人文学全体の採択研究課題数は8.8%増えているが、「分科」により採択研究課題数の増分には差があることがわかる。分科：文化人類学は12.7%、哲学は12.6%、文学は11.5%、言語学は10.4%となっており、「分野」全体の伸び率より大きい。一方、分科：史学では1.7%、人文地理学は3.4%となっており、「分野」全体の伸び率よりも小さい。このように「分科」によりかなりの差があるが、「分科」の規模の大小があるため、単純な議論には注意を要する。

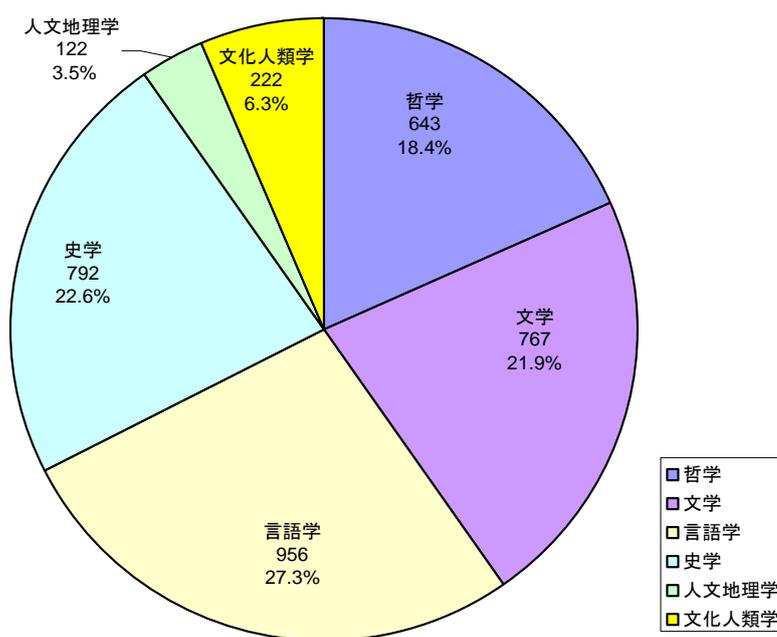


図2-5 2007年度の人文学「分科」別採択研究課題数

以下、哲学、文学、言語学、史学、人文地理学、文化人類学の各「分科」について、I章で述べた方針にしたがって上位30位までを表にまとめ、表2-3～2-5に示す。表に対応した各「分科」の機関別の棒グラフを図2-6～2-10に示す。分科：人文地理学は採択研究課題数が少ないので、棒グラフでは省略することとする。

表2-3～2-5と図2-6～2-10で一目瞭然であるが、それぞれの分野での各大学の研究活性化度がかなりよくみえる。

分科：哲学では、東京大学、京都大学、東北大学、大阪大学と旧帝国大学時代から文学部を持つ大学が上位を占める。前年度と比較すると、北海道大学が8位から5位に上昇し、早稲田大学は5位から同数7位に後退している。中位以降では、九州大学が前年度に引き続き採択研究課題数を減らしている。

分科：文学では、東京大学の1位は変わらず、早稲田大学も前年度に続き2位を保っている。前年度同数7位であった国文学研究資料館は同数10位に後退している。

分科：言語学では、東京外国語大学が1位であり、大学の特徴が表れている。前年度に採択研究課題数を減少させた広島大学が採択研究課題数を増やして12位から7位に上昇し、採択研究課題数を減らした国立国語研究所は8位から11位に後退している。

分科：史学は分野：人文学のなかで採択研究課題数の伸び率が最も小さいが、東京大学、京都大学のほか各種の歴史・民俗学系の研究所が上位30位の範囲に数多く入っている。

分科：文化人類学では国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館、北海道開拓記念館などの機関が上位に現れ、この分野の研究の動向を反映しているとみることができる。

しかし、分野：人文学では、各研究機関の「分科」別の採択研究課題数が少なく、年度による採択研究課題数にバラツキがある。各「分科」の中位以降は採択研究課題数が10件前後であるため、年度ごとに採択研究課題数が数件増減するだけで、大きく順位が変動してしまう。このため、単年度の採択研究課題数だけでは、大学の研究活性化度を評価することが難しいことがわかる。このような採択動向の変化を注意深く見守る必要があると考えられる。

表2-3 人文学「分科」別採択研究課題数上位30位(2007年度)(1)

金額単位/千円

哲学					文学						
順位	種別	機関名	2007年度		2006 件数	順位	種別	機関名	2007年度		2006 件数
			件数	金額					件数	金額	
1	国	東京大学	31	101,310	29	1	国	東京大学	42	93,190	35
2	国	京都大学	23	62,700	25	2	私	早稲田大学	31	32,910	28
2	国	東北大学	23	53,800	21	3	国	大阪大学	23	32,600	19
4	国	大阪大学	20	34,580	17	3	国	広島大学	23	23,500	19
5	国	北海道大学	17	23,390	13	5	国	京都大学	21	33,090	19
6	国	筑波大学	16	32,600	15	6	国	名古屋大学	18	18,400	17
7	私	早稲田大学	13	22,480	16	7	国	東北大学	17	22,500	14
7	国	広島大学	13	14,500	14	7	国	筑波大学	17	19,590	16
9	国	名古屋大学	12	27,000	12	9	国	九州大学	16	16,700	16
10	国	東京芸術大学	9	27,800	10	10	他	国文学研究資料館	14	32,000	16
10	私	龍谷大学	9	15,500	8	10	私	関西大学	14	13,600	11
10	私	立命館大学	9	12,490	7	10	国	神戸大学	14	13,200	13
10	国	神戸大学	9	9,500	10	13	国	東京外国語大学	13	26,400	14
10	国	九州大学	9	7,900	11	13	私	慶應義塾大学	13	17,160	12
15	私	慶應義塾大学	8	13,200	7	15	国	大阪外国語大学	11	18,000	9
15	私	関西大学	8	7,700	8	15	国	北海道大学	11	16,700	10
15	私	同志社大学	8	7,000	6	15	公	首都大学東京	11	10,500	11
18	国	金沢大学	7	11,500	7	18	国	埼玉大学	9	14,800	5
18	私	日本大学	7	5,130	4	18	私	同志社大学	9	11,200	6
20	国	東京外国語大学	6	17,200	4	20	私	立命館大学	8	11,900	10
20	国	一橋大学	6	11,400	3	20	国	琉球大学	8	10,000	9
20	私	京都造形芸術大学	6	9,200	5	20	私	法政大学	8	9,800	7
20	国	弘前大学	6	5,200	5	20	私	明治大学	8	7,200	6
24	国	新潟大学	5	12,200	6	24	私	青山学院大学	7	12,800	6
24	私	大東文化大学	5	11,200	4	24	国	お茶の水女子大学	7	9,700	6
24	公	沖縄県立芸術大学	5	6,800	3	24	国	一橋大学	7	7,400	8
24	私	東洋大学	5	5,900	8	24	国	山形大学	7	4,600	6
24	国	埼玉大学	5	4,400	3	24	国	金沢大学	7	4,210	8
29	私	南山大学	4	15,510	3	29	公	愛知県立大学	6	11,900	6
29	私	立教大学	4	14,200	1	29	国	信州大学	6	8,200	3
29	他	東京国立博物館	4	13,000	2	29	国	山口大学	6	8,000	6
29	国	静岡大学	4	11,500	4	29	国	新潟大学	6	5,400	6
29	他	東京文化財研究所	4	6,800	2	29	国	静岡大学	6	4,700	6
29	私	上智大学	4	6,700	4	29	国	千葉大学	6	4,600	6
29	国	お茶の水女子大学	4	4,100	2	29	国	東京学芸大学	6	3,700	7
29	国	山形大学	4	3,900	2						
29	国	東京学芸大学	4	3,400	3						
29	他	大阪市美術振興協会	4	3,200	4						
29	国	三重大学	4	3,100	5						
29	公	大阪府立大学	4	2,900	2						
		合計	643	1,073,040	571			合計	767	961,457	688

採択研究課題数

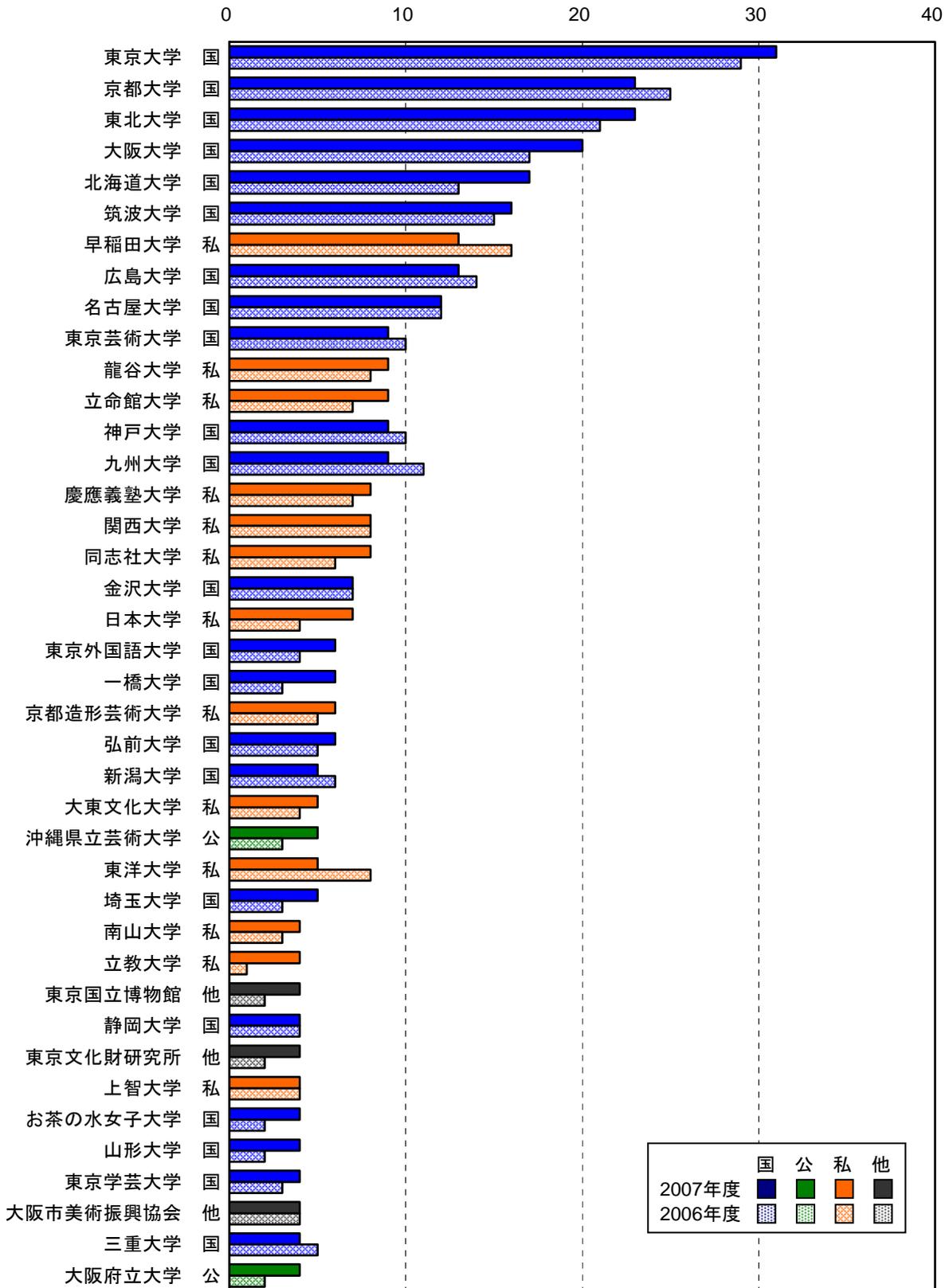


図 2 - 6 哲学 採択研究課題数上位 30 位 (2007 年度)

採択研究課題数

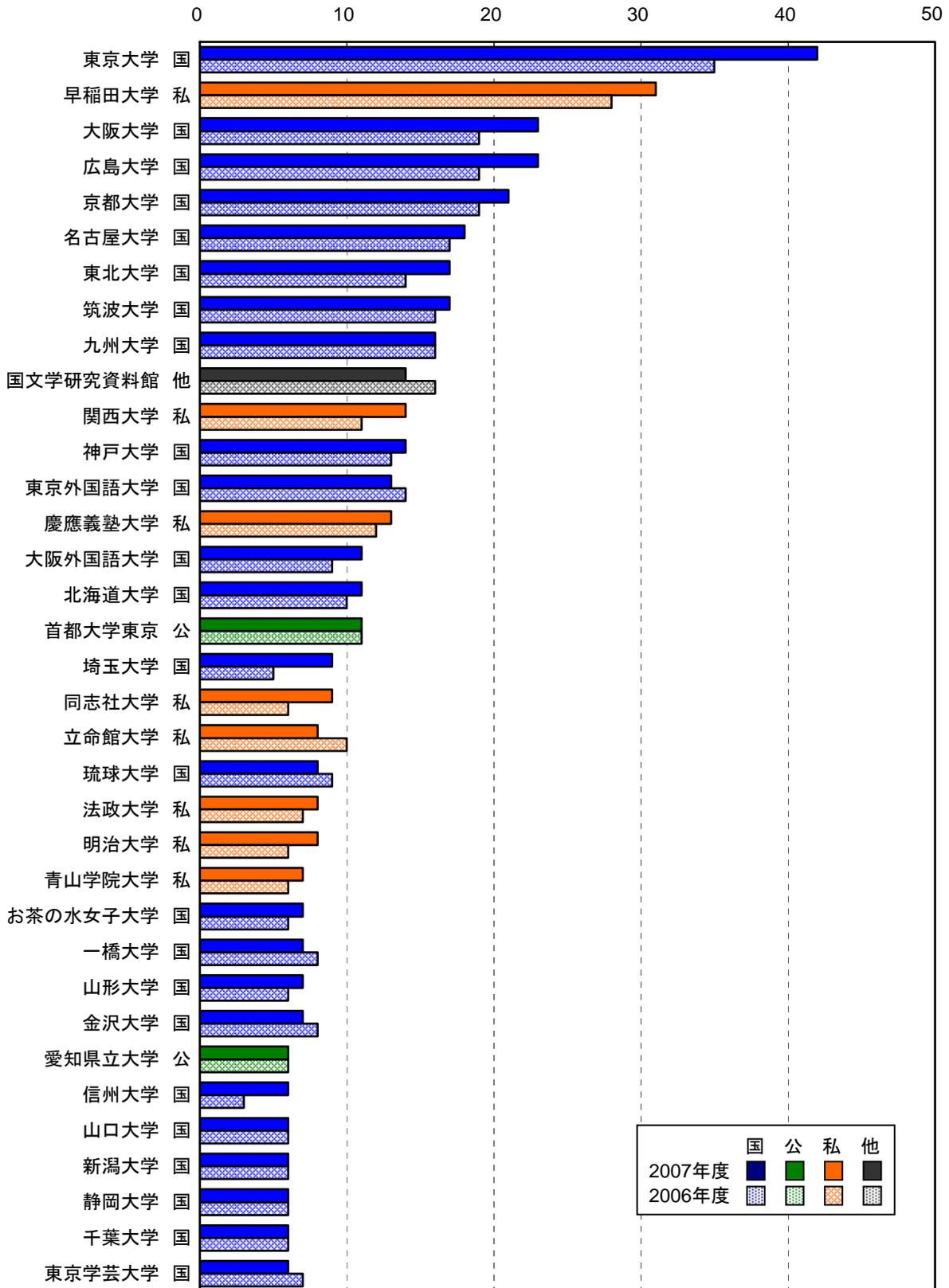


図 2 - 7 文学 採択研究課題数上位 30 位 (2007 年度)

採択研究課題数

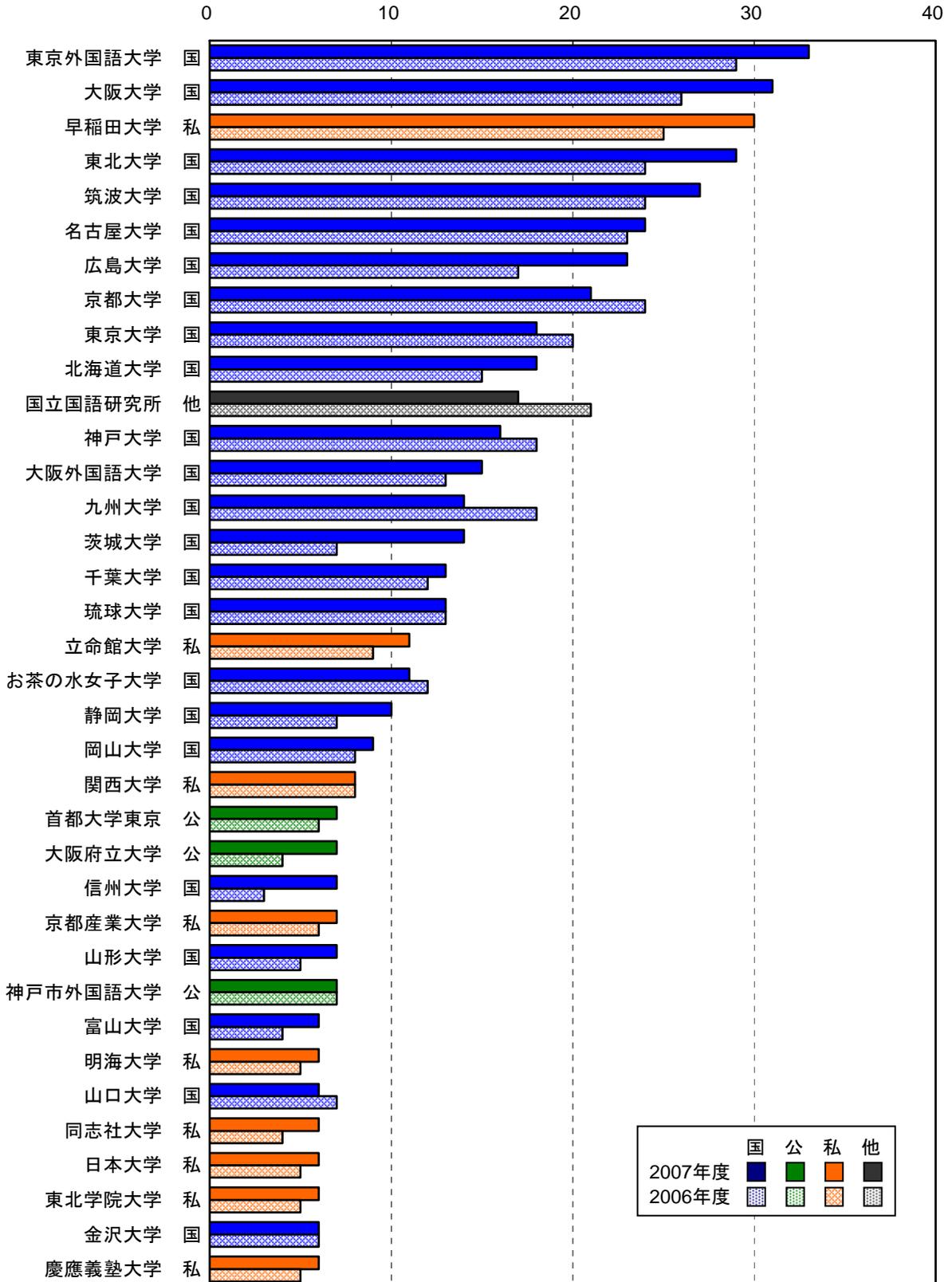


図 2 - 8 言語学 採択研究課題数上位 30 位 (2007 年度)

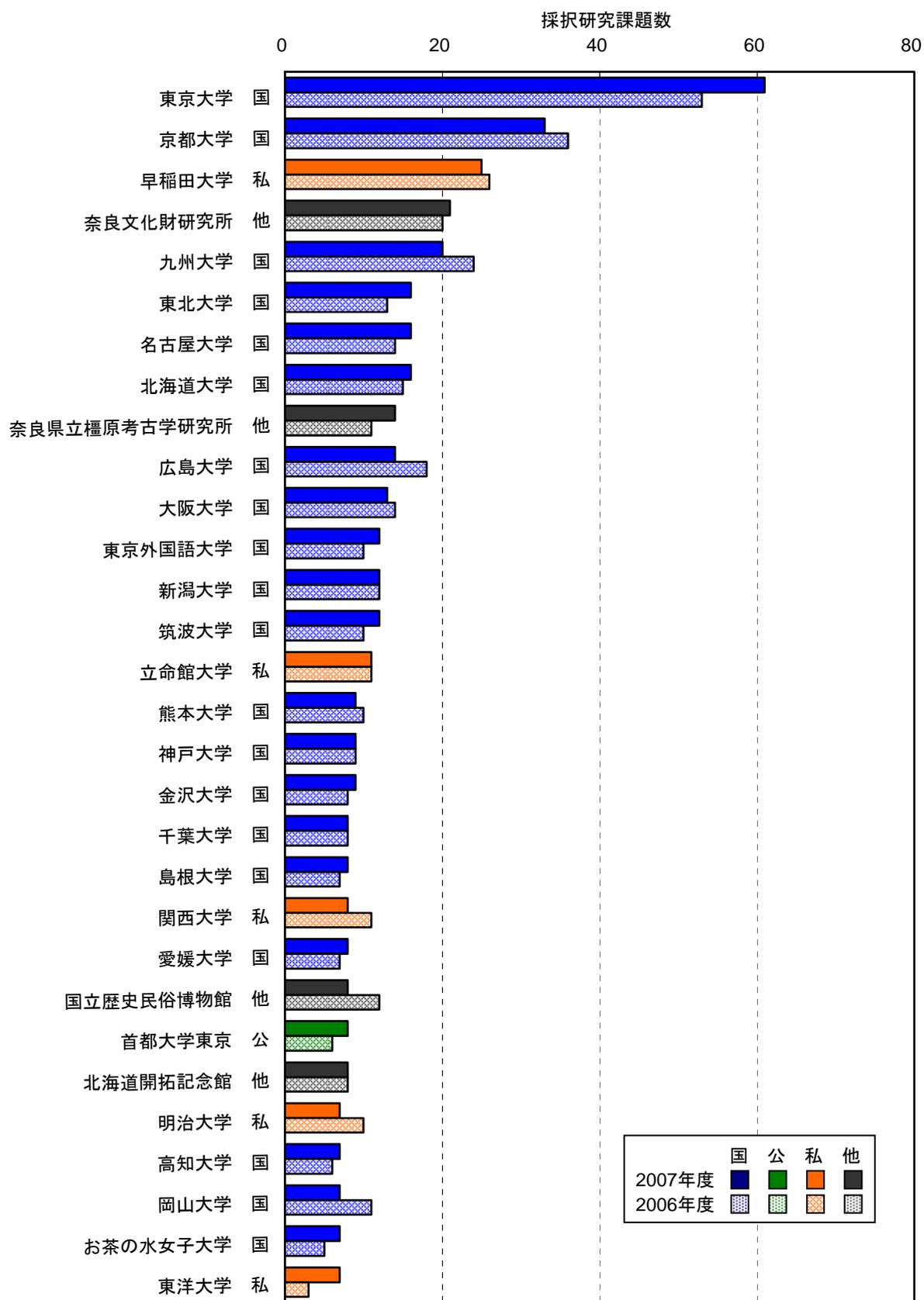


図2-9 史学 採択研究課題数上位30位 (2007年度)

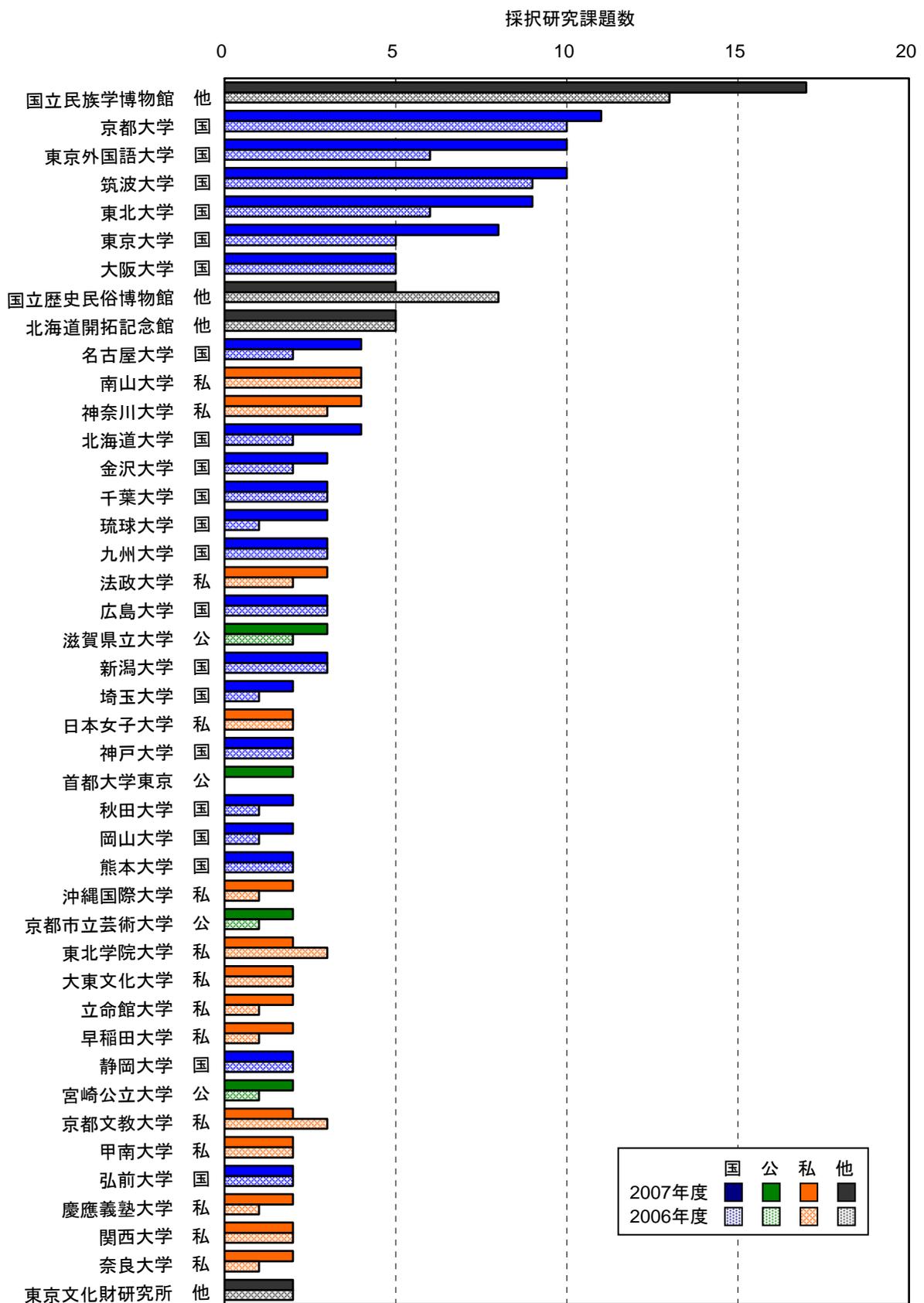


図 2 - 1 0 文化人類学 採択研究課題数上位 30 位 (2007 年度)

2-2 社会科学

分野：社会科学の中の法学、政治学、経済学、経営学、社会学、心理学、教育学の「分科」ごとの採択研究課題数を図2-11の円グラフに示す。各「分科」の採択研究課題数の割合は、分科：政治学を除けば「分科」間に大きな偏りがない。

前年度と比較すると、分野：社会科学全体では採択研究課題数の伸び率が10.2%と大幅に増えているが、「分科」ごとにみると、採択研究課題数の伸び率が最も大きいのは分科：経営学であり、13.1%伸びているほか、分科：教育学でも伸び率が11.4%と大きい。一方、分科：法学の伸び率は8.3%と分野：社会科学の中では最も小さいが、それでも8%台となっている。

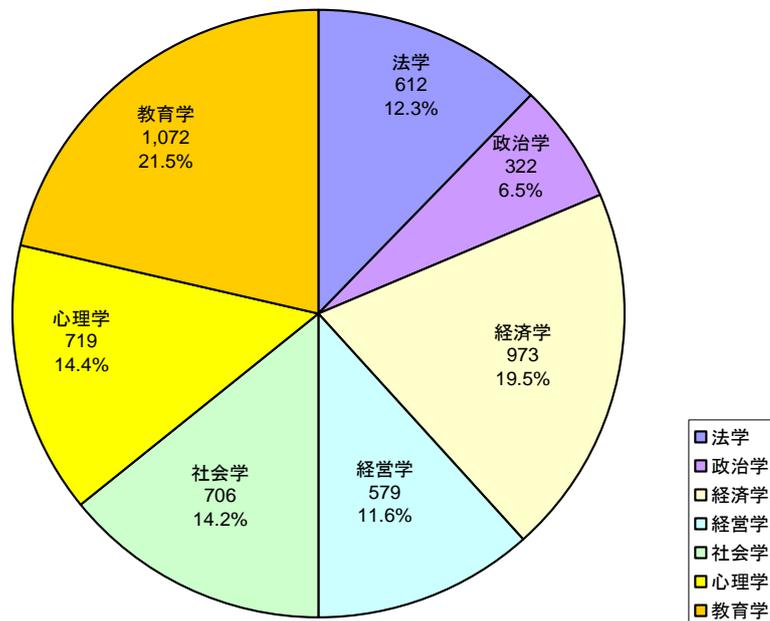


図2-11 2007年度の社会科学「分科」別採択研究課題数

以下、法学、政治学、経済学、経営学、社会学、心理学、教育学の各「分科」について、I章で述べた方針にしたがって上位30位までを表にまとめ、表2-6～2-9に示す。表に対応した各「分科」の機関別の棒グラフを図2-12～2-18に示す。

分科：法学では、北海道大学は1位を守ったものの採択研究課題数を減らし、採択研究課題数を増やした2位の東京大学との差が小さくなっている。早稲田大学が5位から3位に上昇し、首都大学東京も同数17位から11位に躍進している。これに対し名古屋大学、神戸大学がやや順位を下けているほか、立命館大学は同数7位から12位に大きく後退している。

分科：政治学では、採択研究課題数を減らしているものの東京大学が1位を守り、前年度4位の北海道大学が2位に上昇し、神戸大学がそれに伴って順位をやや下げている。

分科：経済学でも、東京大学が1位を守っている。前年度はともに同数3位であった大阪大学と神戸大学については、神戸大学は3位を守ったものの、大阪大学は4位に後退した。九州大学は採択研究課題数を増やし、同数15位から同数8位に躍進している。

分科：経営学では、神戸大学、早稲田大学の1位、2位は変わらないが、前年度3位の日本大学が同数18位へと大きく後退したほか、京都大学も同数5位から同数11位に後退し、代わりに法政大学が同数15位から3位に躍進している。

分科：社会学においても上位に現れる機関はあまり変わらず、私立大学の強さが目立つ。埼玉大学は採択研究課題数を5件増やして、上位30位外から同数16位へ躍進している。

分科：心理学では、東京大学が1位、名古屋大学が2位に上昇し、広島大学が1位から3位に後退している。前年度に採択研究課題数を大きく減らしていた京都大学は採択研究課題数を17件まで回復したが、同数5位に留まっている。

分科：教育学では、筑波大学が広島大学を抜いて1位に上昇し、東京大学は同数4位から同数9位に後退している。国立特別支援教育総合研究所は13位から上位30位外に後退している。教員養成系国立大学が数多く現れる点では前年度と同様である。

分野：社会科学でも「分科」ごとにみると、それぞれの研究機関の特徴をみることができるが、単年度では採択研究課題数の絶対数が少なく、上位10位程の研究機関以外は個々の順位にはあまり意味がないことに注意しておくべきである。

この一連の、科学研究費補助金の採択研究課題数による大学・大学院の研究活性度の調査研究にあたって、データの整理、編集、図表の作成をお願いした東京大学生産技術研究所の斉藤加余子氏に感謝の意を表す。

表 2-9 社会科学「分科」別採択研究課題数上位 30 位 (2007 年度) (4)

金額単位/千円

教育学					
順位	種別	機関名	2007年度		2006 件数
			件数	金額	
1	国	筑波大学	48	99,800	45
2	国	広島大学	46	99,790	47
3	国	東京学芸大学	29	46,640	30
4	他	国立教育政策研究所	25	55,100	23
5	国	名古屋大学	23	39,200	19
6	国	京都大学	21	42,880	19
6	国	北海道教育大学	21	25,620	20
8	国	東北大学	20	41,020	18
9	国	東京大学	18	44,800	23
9	国	上越教育大学	18	26,700	17
11	国	信州大学	17	22,500	17
12	国	愛知教育大学	16	18,400	12
12	国	大阪教育大学	16	15,200	16
14	私	早稲田大学	14	24,900	12
14	国	愛媛大学	14	14,700	11
14	国	兵庫教育大学	14	14,251	9
14	国	新潟大学	14	11,110	13
18	国	宮城教育大学	13	15,090	10
18	国	弘前大学	13	14,540	10
20	国	北海道大学	12	28,900	12
20	国	群馬大学	12	27,700	11
20	国	長崎大学	12	12,980	10
23	国	奈良教育大学	11	20,900	6
23	国	琉球大学	11	18,972	10
23	国	九州大学	11	18,110	12
23	国	鳴門教育大学	11	17,600	10
23	国	静岡大学	11	14,200	12
23	国	千葉大学	11	11,900	11
23	国	福岡教育大学	11	11,420	11
23	国	埼玉大学	11	11,200	6
23	国	熊本大学	11	9,410	12
		合計	1,072	1,631,743	962

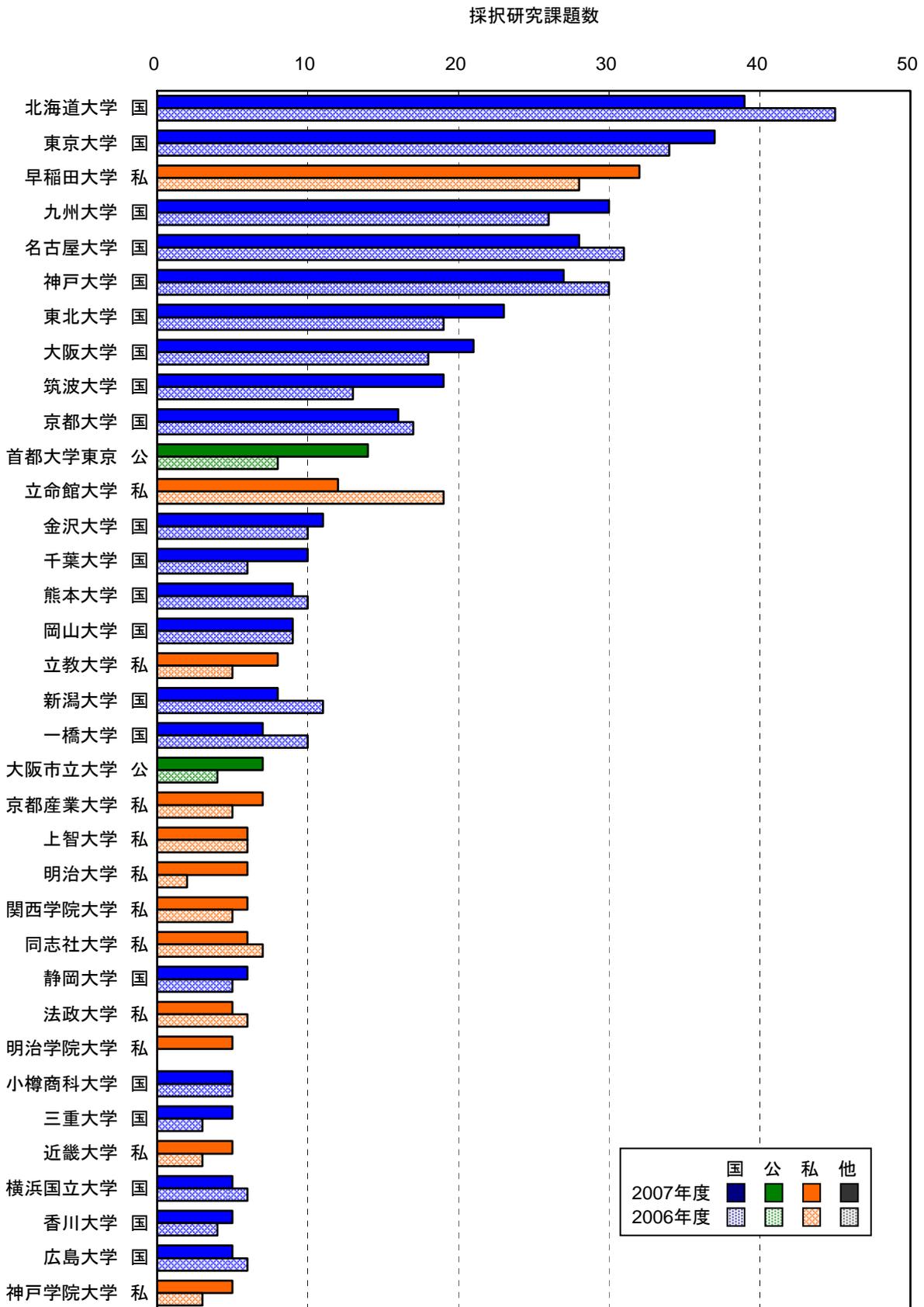


図 2 - 1 2 法学 採択研究課題数上位 30 位 (2007 年度)

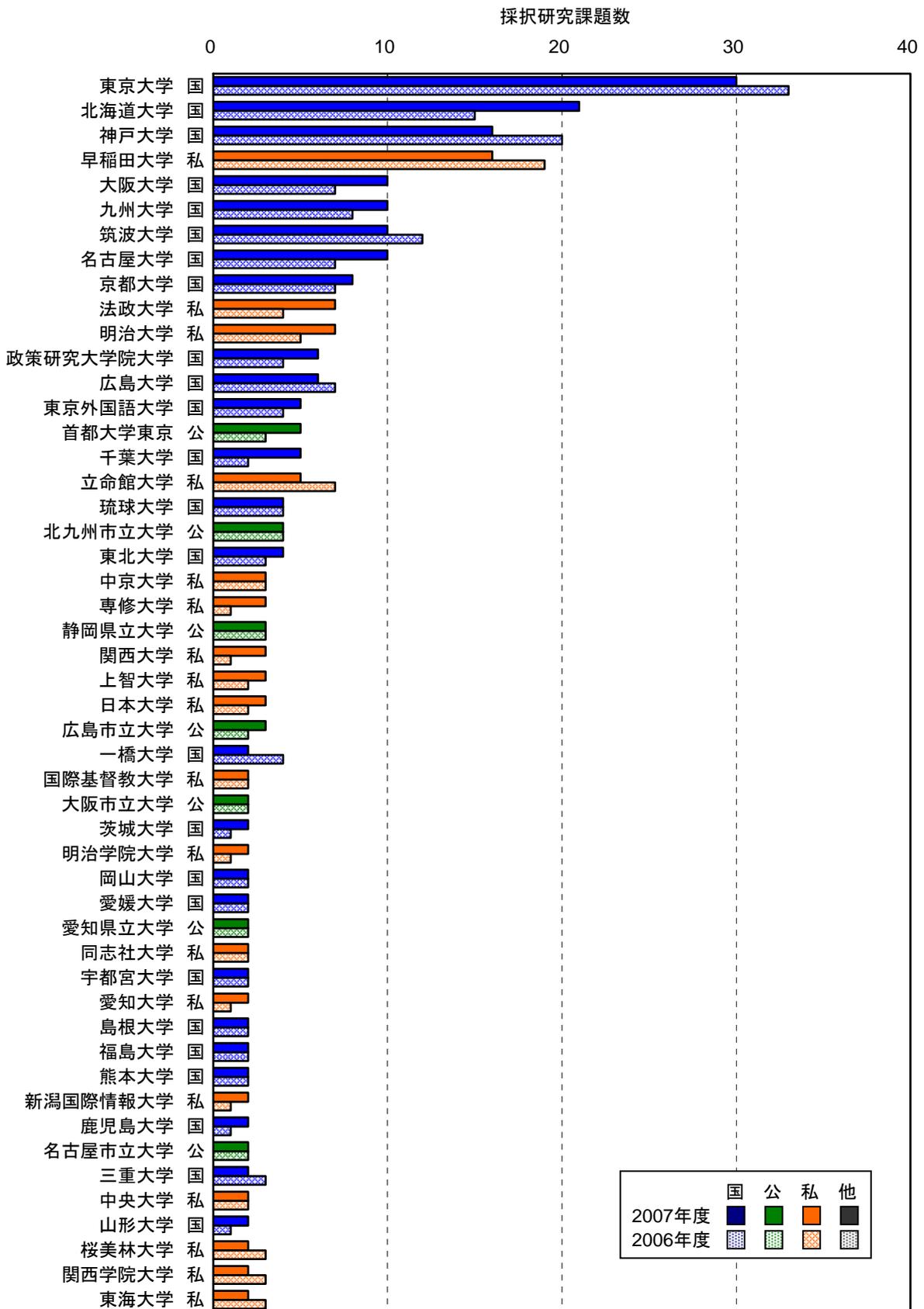


図2-13 政治学 採択研究課題数上位30位(2007年度)

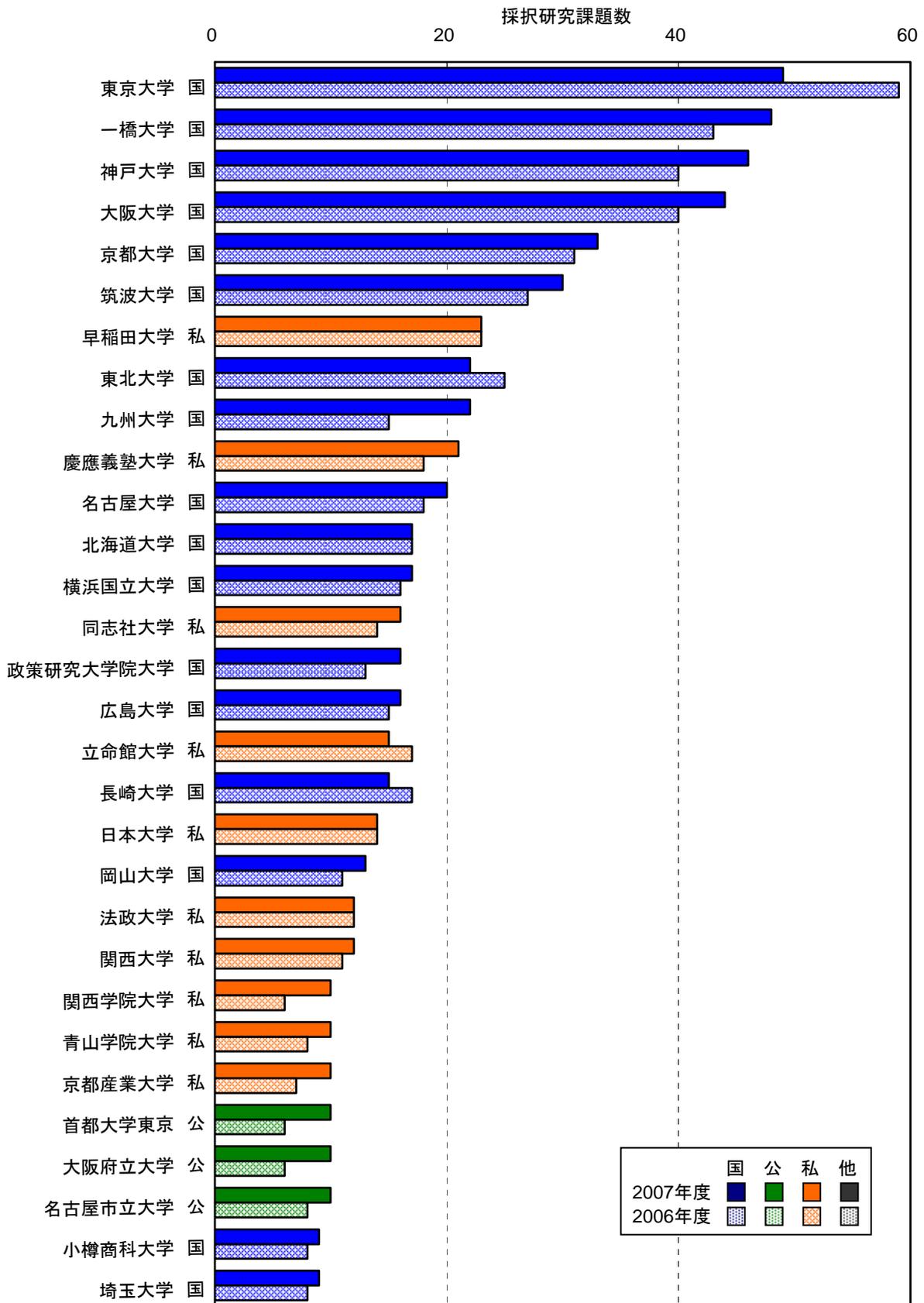


図2-14 経済学 採択研究課題数上位30位 (2007年度)

採択研究課題数

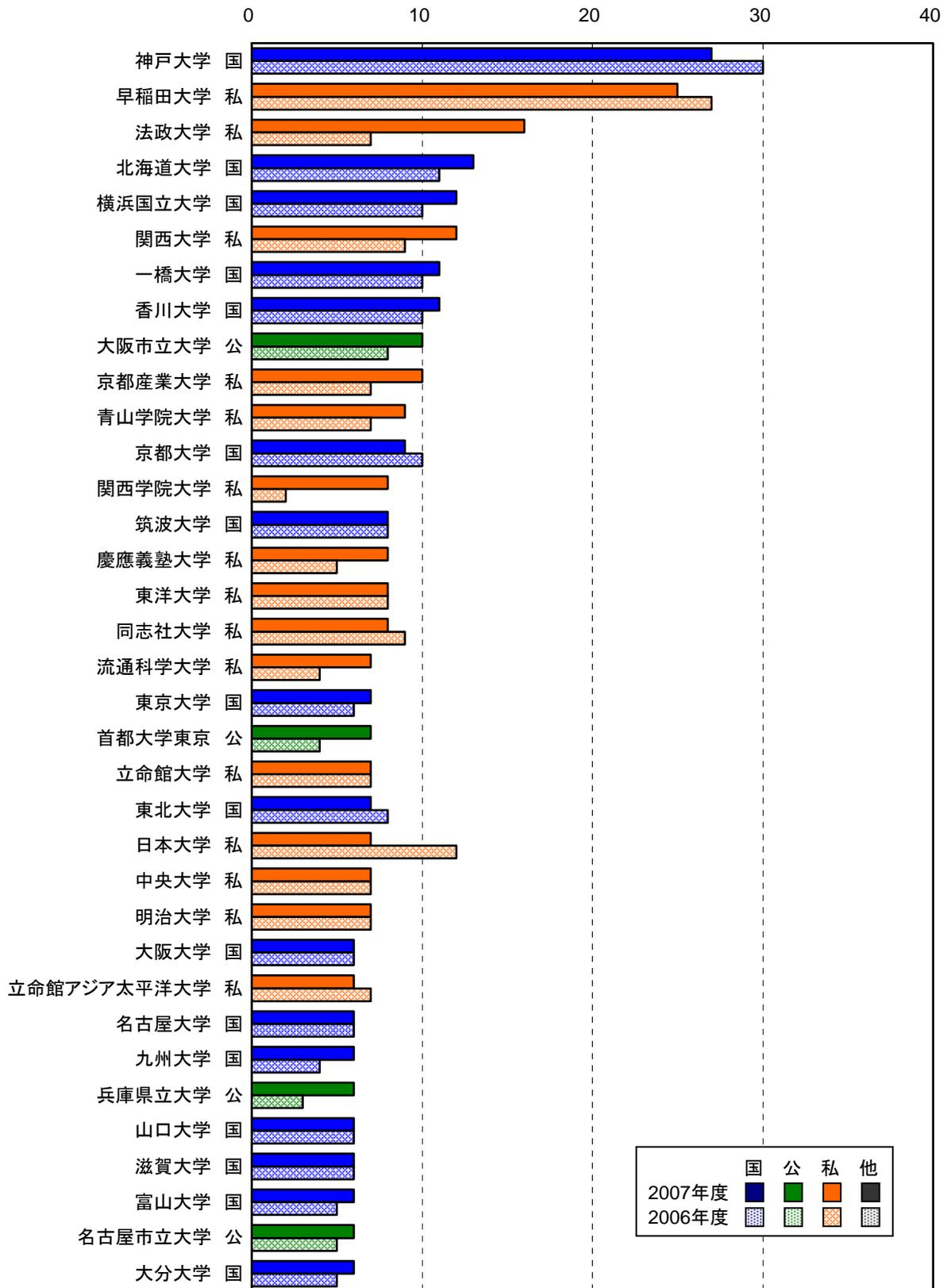


図2-15 経営学 採択研究課題数上位30位 (2007年度)

採択研究課題数

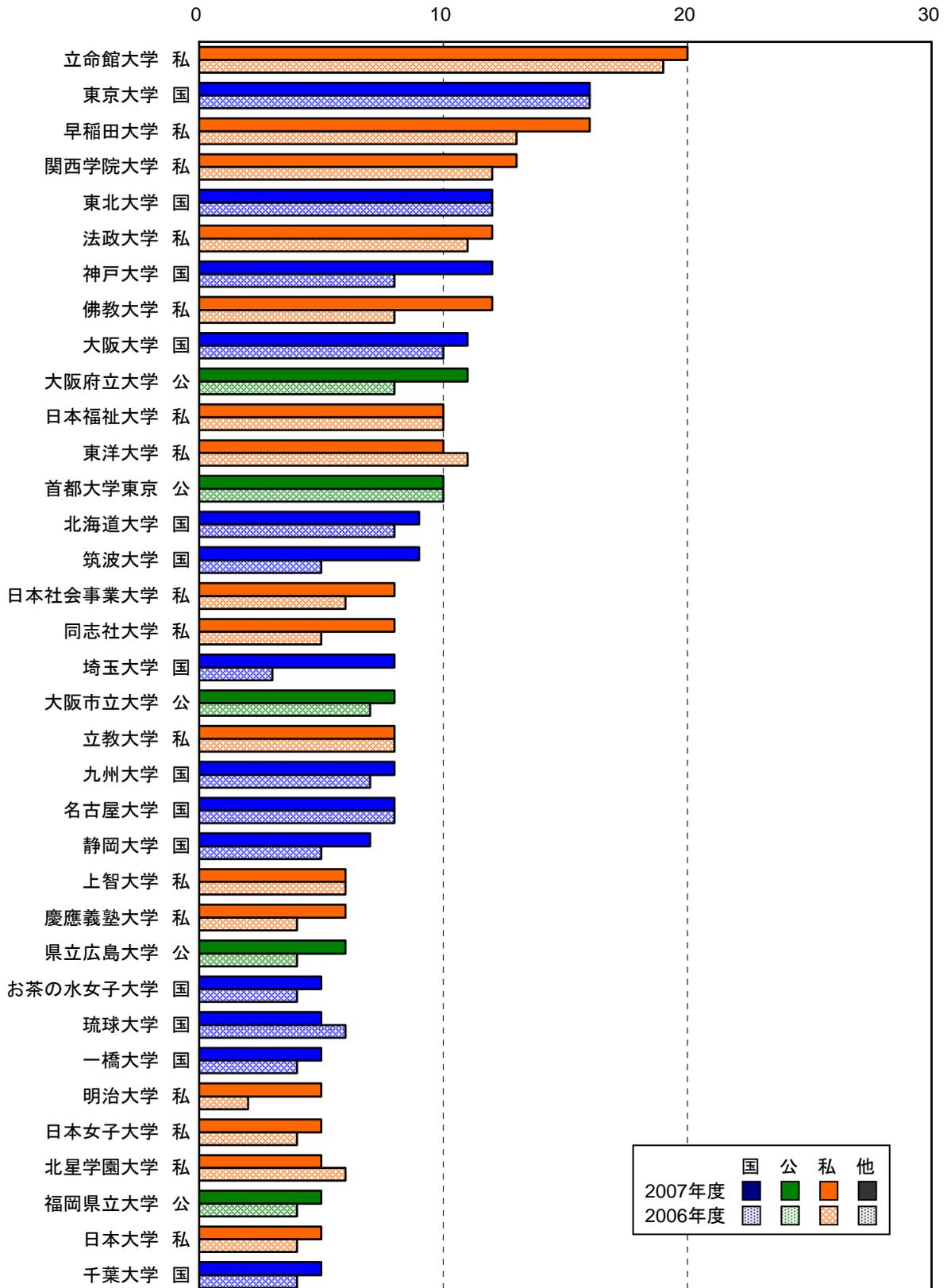


図 2 - 1 6 社会学 採択研究課題数上位 30 位 (2007 年度)

採択研究課題数

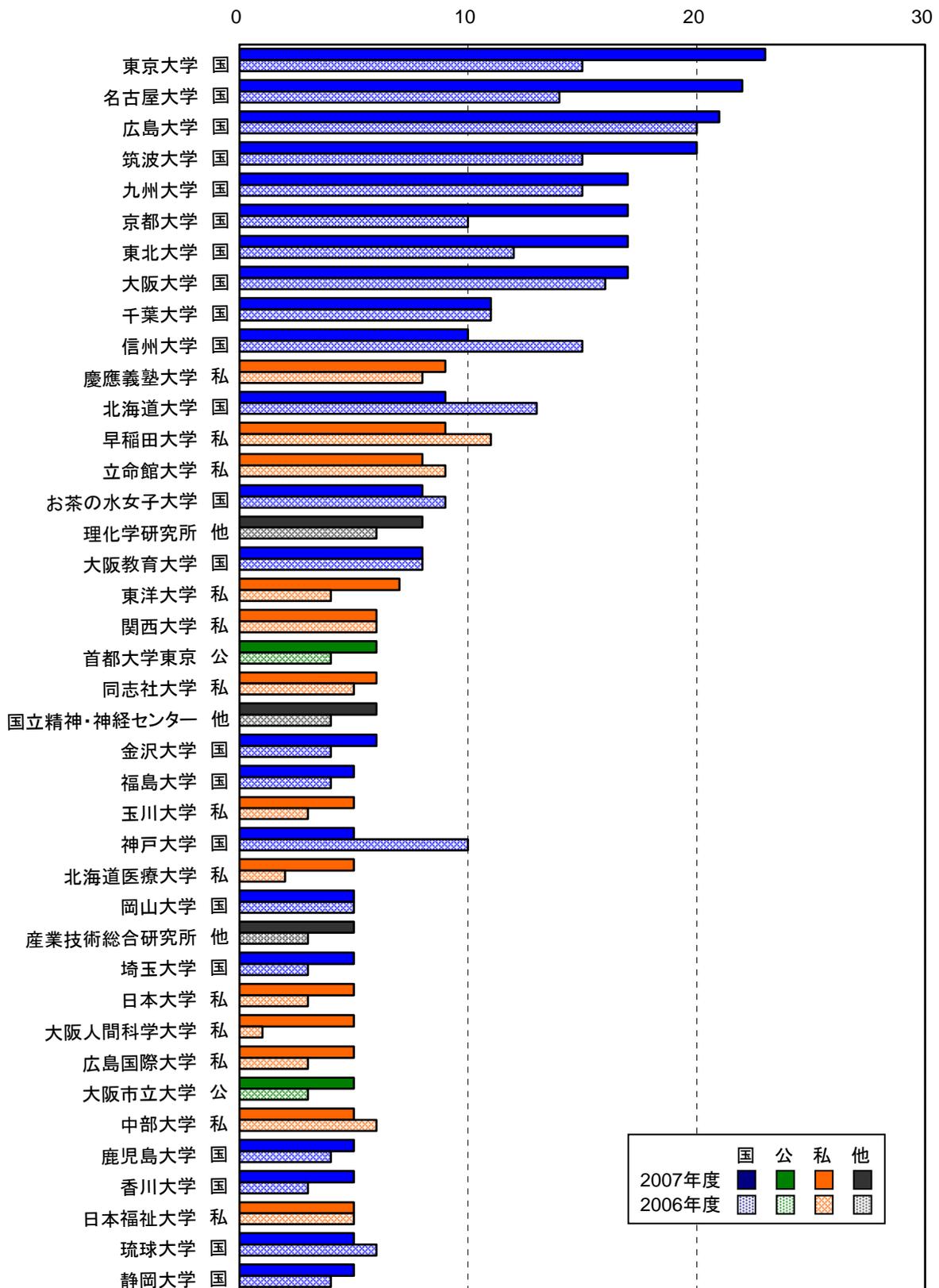


図2-17 心理学 採択研究課題数上位30位(2007年度)

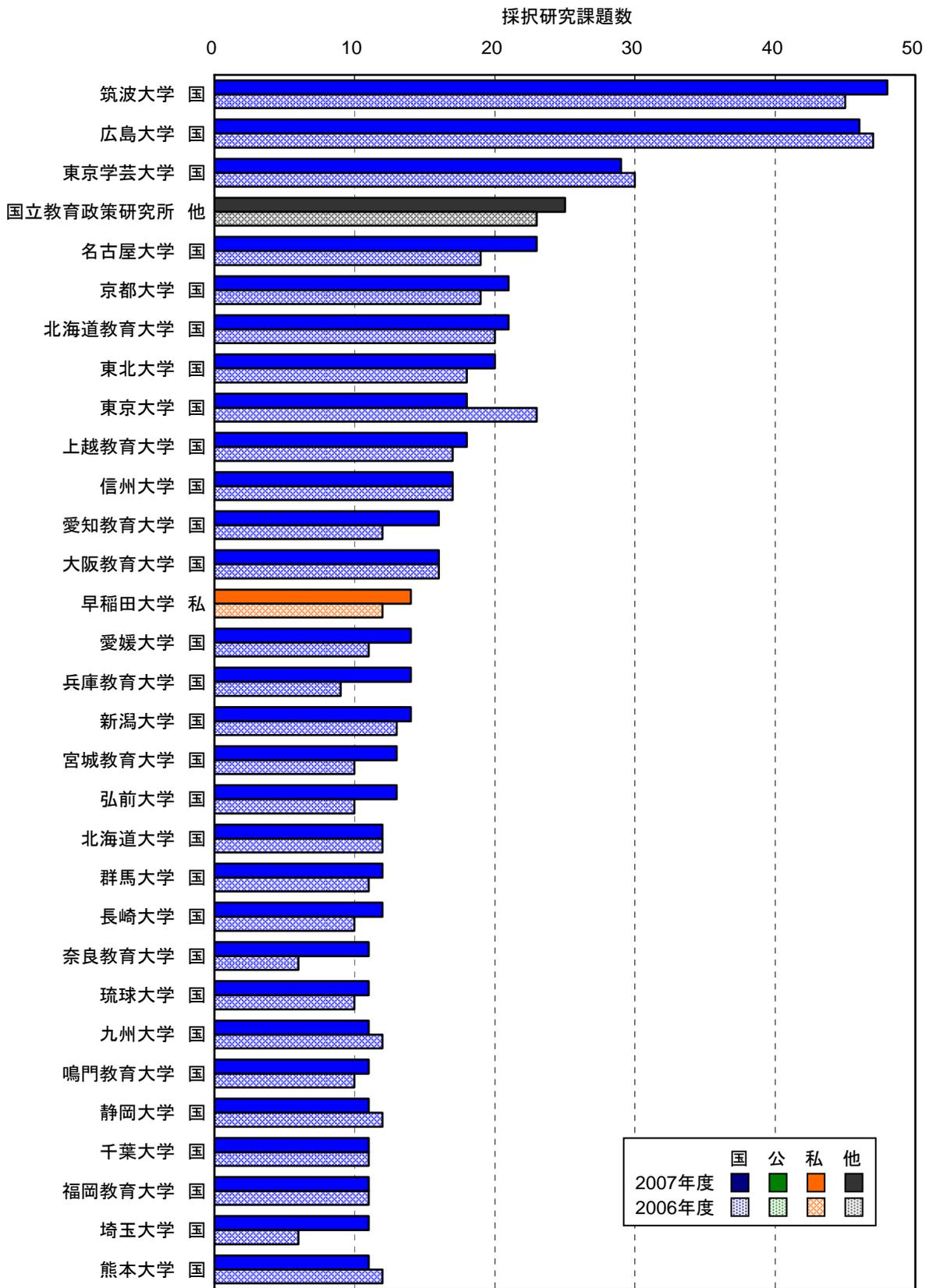


図2-18 教育学 採択研究課題数上位30位(2007年度)